

2022年度

事業報告書

事業報告の附属明細書

公益財団法人かわさき市民活動センター

目 次

事業報告書

1 当法人の現況に関する事項	1
(1) 事業の経過及びその成果	1
(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況	1
(3) 主要な事業内容	2
(4) 重要な契約に関する事項	2
(5) 職員に関する事項	2
(6) 役員会等に関する事項	2~4
2 役員等に関する事項	4
(1) 理事	4~5
(2) 監事	5
(3) 評議員	5
(4) 退任した役員	5
(5) 役員等の報酬	6

事業報告の附属明細書

I 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況…	7
II 事業の実施状況について補足すべき重要事項【事業の概要】…	7
1 市民活動推進事業	7~19
2 青少年健全育成事業	20~47
3 法人の運営	48

事業報告書

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

はじめに

当財団の使命は、「川崎市における市民活動支援の中間支援組織として市民相互の連携を図りながら市民活動の活性化を促進するとともに、青少年の心身の健全な育成を図るため、青少年事業の推進及び地域組織への支援を行い、もって住みよい地域社会の確立に寄与する」ことが定款第3条に定められています。

2022年度においても「市民活動推進事業」及び「青少年健全育成事業」を2本の柱として、地域の関係団体や関係機関と連携した事業展開を図りました。

「市民活動推進事業」では、市民活動が活発になり市民創発を促すことを意識し、情報発信、講座、交流、専門相談、助成金等の各事業の連携と相乗効果を目指しました。加えて、コロナ禍の下、全市・全領域の市民活動支援組織として、市民活動団体等が直面した課題への対応、新たな支援の検討と実践に取り組みました。また、施設運営においても利用者にとって安心・安全な施設となるようさまざまな対策を講じました。

「青少年健全育成事業」では、子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所となるよう、多彩な事業を実施しました。2019年度から5年間の指定管理者として、こども文化センター53館及びわくわくプラザ102校について仕様に即した安定した運営を行うとともに、こども文化センターの団体利用の拡充に向けた施設利用の推進などを含め事業を進めました。加えて、新型コロナウイルス感染症対策として、衛生管理を強化するとともに、利用時間、定員、活動内容や行事内容等について、段階的に運営を行いながら感染予防に努めました。

また、法人として、確実な組織運営と健全な財政運営に基づいた経営を進めながら、公益目的事業の推進を図ってきました。なお、2022年度におきましても、昨年度と同様、コロナ禍での事業運営を行うという環境の中で、オンラインにより行事等を実施するなど施設運営や事業方法に様々な対応を行ってきました。今後におきましても、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しつつ、引き続き、職員の安全安心を確保し、事業運営を円滑に進めていくことが、重要な課題となっています。

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

(単位:千円)

事業別【経常収益】	予算現額	執行済額	執行率
市民活動推進事業	92,637	92,273	99.61%
青少年健全育成事業	3,371,747	3,428,434	101.68%

※千円未満は四捨五入

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

(単位:千円)

区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (当事業年度)
経常収益	3,230,523	3,218,700	3,394,058	3,570,874
当期経常増減額	39,348	4,214	17,399	△22,444
正味財産期末残高	269,536	273,618	291,596	269,072

※千円未満は四捨五入

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
市民活動推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業 ・市民活動に関する調査・研究事業 ・市民活動に関する人材育成及び相談事業 ・市民活動の促進・支援事業 ・関係機関・関係団体等との連携 ・その他目的を達成するために必要な事業 (理事会又は評議員会で決議する事業)
青少年健全育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成に関する事業 ・青少年施設の管理運営の受託 ・関係機関・関係団体等との連携 ・その他目的を達成するために必要な事業 (理事会又は評議員会で決議する事業)

(4) 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
2022年4月1日	川崎市	合計 2,873,888,330 円	2022年4月1日 から	川崎市こども文化センター指定管理業務の受託に伴う年度協定書
変更契約： 2022年11月14日		合計 2,908,578,734 円	2023年3月31日 まで	

(5) 職員に関する事項**(2023年3月31日現在)**

職名等	氏名	就任年月日	担当事務	備考
事務局 長	亀田 俊夫	2020.4.1	事務局の総括	重要な使用人
総務課 長	大野 秀人	2022.4.1	課の総括	
市民活動推進課 長	須藤 純子	2022.4.1	〃	
青少年事業課 長	三ッ木 純子	2020.4.1	〃	
青少年事業課 主幹	島 忍	2010.10.1	エリアマネージャーの総括	
その他の職員（派遣職員を除く。）				2,016 人

(6) 役員会等に関する事項

ア 理事会

会議名	開催年月日	議 題	会議の結果
第1回	2022年 6月2日	議案（決議事項） 議案第1号 2021年度事業報告及び決算 議案第2号 2022年度第2回評議員会（定時評議員会） の開催 報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第1号 年度協定書の締結	可決 可決 了承
第2回	2022年 6月23日	議案（決議事項） 議案第1号 理事長の選定について 議案第2号 副理事長及び常務理事の選定について 議案第3号 規則の改正について	可決 可決 可決
第3回	2022年 11月25日	議案（決議事項） 議案第1号 2022年度11月補正予算 議案第2号 2022年度第3回評議員会の開催 報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第1号 2022年度上半期の事業等 報告第2号 年度協定書の一部を変更する協定の締結	可決 可決 了承 了承
第4回	2023年 3月17日	議案（決議事項） 議案第1号 規則の改正 議案第2号 2023年度事業計画書 議案第3号 2023年度収支予算書等 議案第4号 2023年度第1回評議員会の開催 議案第5号 役員等賠償責任保険契約について 報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第1号 2022年度第1回資金運用委員会の結果 報告 報告第2号 職員採用選考及び昇任試験の結果（青少年事 業課）	可決 可決 可決 可決 可決 了承 了承

イ 評議員会

会議名	開催年月日	議 題	会議の結果
第1回	2022年 4月14日	報告事項 報告第1号 規則の廃止及び制定 報告第2号 2022年度事業計画書 報告第3号 2022年度収支予算書等 報告第4号 2021年度3月補正予算 報告第5号 行政庁への収支相償に向けた剰余金解消計画 報告第6号 2021年度第1回資金運用委員会の結果報告 報告第7号 職員採用選考及び昇任試験の結果通知事項	了承 了承 了承 了承 了承 了承 了承
第2回	2022年 6月23日	議案（決議事項） 議案第1号 2021年度事業報告及び決算について 議案第2号 理事の任期満了に伴う改選について 議案第3号 監事の任期満了に伴う改選について 議案第4号 評議員の任期満了に伴う改選について 報告事項 報告第1号 年度協定書の締結について	可決 可決 可決 可決 了承
第3回	2022年 12月12日	議案（決議事項） 議案第1号 規則の改正（役員及び評議員の報酬並びに費用の額の決定及びその規則の改廃） 報告事項 報告第1号 年度協定書の一部を変更する協定の締結 報告第2号 2022年度11月補正予算 報告第3号 2022年度上半期の事業等	可決 了承 了承 了承

2 役員等に関する事項

(2023年3月31日現在)

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
代表理事 (理事長)	小倉 敬子	2022.6.23 から 2024.6 定時評議員 会の終結の時ま で	常勤	有	文化パートナーズかわさき 代 表
副理事長	鈴木 眞智子	〃	非常勤	〃	特定非営利活動法人 水・防災機構 理事長
副理事長	福田 武雄	〃	〃	〃	川崎市青少年育成連盟 副 理 事 長
代表理事 (常務理事)	安藤 勲	〃	常勤	〃	元川崎市議会局長
理 事	岩瀬 正人	〃	非常勤	〃	公益財団法人川崎市生涯学習財団 常務理事（事務局長兼務）
〃	浦野 一吉	〃	〃	〃	川崎市全町内会連合会 理事
〃	高田 智幸	〃	〃	〃	社会福祉法人川崎市 社会福祉協議会 事務局長

〃	舘 勇紀	〃	〃	〃	川崎市PTA連絡協議会 会長
〃	田中 和代	〃	〃	〃	参画 はぐくみ工房 代表
〃	蠟山 優二	〃	〃	〃	川崎市レクリエーション連盟 副 会 長

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	池野 光弘	2022.6.23 ~ 2024.6 定時評議員会の終結の時 まで	非常勤	有	税 理 士
〃	岩森 耕太郎	〃	〃	〃	特定非営利活動法人 かわさき MOVEARTOO隊 理事長

(3) 評議員

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
評議員	齊藤 準	2022.6.23 から 2026.6 定時評議員会の終結の時 まで	非常勤	有	特定非営利活動法人 川崎市 視覚障害者福祉協会 理事
〃	阪本 智子	〃	〃	〃	元川崎市立小学校 校長
〃	菅原 陽子	〃	〃	〃	夏 菟 太 鼓 代 表
〃	鈴木 浩之	〃	〃	〃	元川崎市立中学校 校長
〃	竹井 斎	〃	〃	〃	特定非営利活動法人 アクト川崎 理事
〃	橘 貴子	〃	〃	〃	合同会社 橘 代 表
〃	永津 英二郎	〃	〃	〃	税 理 士
〃	番匠 一雅	〃	〃	〃	田園調布学園大学教授
〃	前田 成東	〃	〃	〃	東 海 大 学 教 授
〃	谷島 義雄	〃	〃	〃	宮前区子ども会連合会 会長

(4) 退任した役員

氏名	退任時の地位	退任日	退任理由
岡本 義雄	理 事	2022年6月23日	任 期 満 了
加藤 妙子	〃	〃	〃
日吉 のぞみ	〃	〃	〃
志村 佳徳	監 事	〃	〃
佐治 克哉	評 議 員	〃	〃
仁藤 公子	〃	〃	〃
土澤 稔	〃	〃	〃

(5) 役員等の報酬

区 分	人 数	報 酬 の 総 額	備 考
理 事	10人	7,684 千円	常勤及び非常勤
監 事	2人	144 千円	非 常 勤
評 議 員	10人	224 千円	非 常 勤
合 計	22人	8,052 千円	

※理事、監事及び評議員の報酬額は、「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」において定められている。

※評議員の報酬の限度額は、定款第15条において、毎年度総額30万円を超えないものとされている。

事業報告の附属明細書 ≪2022年度事業報告≫

(2022年4月1日～2023年3月31日)

I 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況

役員の主な他の法人等の代表状況等については、4頁「2 役員等に関する事項」のとおりです。

II 事業の実施状況について補足すべき重要事項【事業の概要】

1 市民活動推進事業

コロナ禍の下、全市・全領域の市民活動支援組織として、これまでの実績と知見を活かし、市民活動団体への支援に取り組みました。2022年度の主な取組結果は、次のとおりです。

(1) 活動拠点施設運営事業

今年度の利用登録団体数は、新規62団体、計853団体でした。

施設・設備名	2018年度 (コロナ禍前)	2020年度	2021年度	2022年度	前年度比較 (増減)
会議室 A	589 団体	319 団体	428 団体	550 団体	122 団体
	6,200 人	2,627 人	3,378 人	4,321 人	943 人
会議室 B	532 団体	289 団体	429 団体	440 団体	11 団体
	4,969 人	2,115 人	3,137 人	3,193 人	56 人
印刷室	573 団体	294 団体	365 団体	446 団体	81 団体
	1,163 人	554 人	615 人	765 人	150 人
フリースペース	4,690 団体	1,117 団体	1,616 団体	2,185 団体	569 団体
	20,091 人	4,564 人	6,437 人	8,495 人	2,058 人
パソコン(2台)	427 団体	227 団体	249 団体	315 団体	66 団体
	715 人	436 人	297 人	361 人	64 人
ロッカー・大(90台)	89 台	90 台	90 台	85 台	△5 台
ロッカー・小(9台)	8 台	9 台	9 台	9 台	0 台
レターケース(54台)	43 台	50 台	48 台	46 台	△2 台
施設・設備等利用合計	6,811 団体 33,138 人	2,246 団体 10,296 人	3,087 団体 13,864 人	3,936 団体 17,135 人	849 団体 3,271 人

2021年度に引き続き、利用者にとって安心・安全な施設となるよう対策を講じつつ、徐々にコロナ感染拡大以前の仕様に戻す運用としました。

とくにフリースペースでは、7月20日からテーブル数を5から12、座席数を36から60に増やし、事前予約制と利用時間帯設定を解除しました。

市民活動ブース利用団体

ブース1	ブース2	ブース3	ブース4	ブース5
アイサーチ・ ジャパン	NPO 法人ダンスラ ボラトリー	(一社) 日本 保育者未来通信	(一社) ランドヌ 東京	かわさきこども 食堂ネットワーク

(2) 情報提供・啓発事業

ア 情報紙「ナンバーゼロ」の発行

市民活動団体に有益な情報を提供するため、季刊2、500部を発行し、関係団体、市内公共機関に配布しました。また、利用登録団体のうち希望する27団体へ送付しました。

今年度から表紙のデザインを一新し、さらに読みやすい紙面としました。毎号、市民活動にまつわる旬の話題を紹介する「トピック」のほか、最新情報を掲載し市民活動団体の運営に役立つ内容となっています。



ナンバーゼロ冬号

イ ボランティア募集情報の発信

市内のボランティア募集情報について川崎市社会福祉協議会と共同で調査し、90団体・施設の募集情報をポータルサイト「応援ナビかわさき」に掲載しました。また、夏休み期間中の主に生徒・学生を対象とした、22団体・施設のボランティア募集情報を同ポータルサイトに掲載しました。

ウ 神奈川新聞へのコラム「市民発」の連載

市民の目線で市民活動団体を紹介することを目的に、21人の市民記者の取材・執筆による記事を、神奈川新聞の協力を得て「市民発 地域をつくる人・活動」と題したコラムを、隔週木曜日に24回掲載しました。

エ ラジオ出演

かわさきFMで毎月第3火曜日に放送している「かわさき ホット☆スタジオ」にセンター職員が出演し、市民活動推進事業について宣伝および情報提供を行いました。



市民発・紙面

オ 事業成果報告書の発行

市民活動推進事業の半期ごとの成果を「見える化」「伝える化」し、市民からの共感と支持を広く得るため、事業成果報告書を6月と12月に各1,000部発行し、賛助会員、関係団体および市内公共機関に送付しました。

カ 市民活動ポータルサイト「応援ナビかわさき」の運営

川崎市内における市民活動のポータルサイトとして役立つよう、イベント・講座、ボランティア募集、団体情報、民間助成金等市民活動に関する最新情報を迅速に掲載するとともに、コンテンツの充実に努めました。

また、新着情報などをまとめたメールマガジンをメルマガ会員（310人）あてに配信しました。

キ 市民活動推進事業ウェブサイトの運営

市民活動推進事業の紹介、コロナ禍における施設の利用状況を随時更新したほか、オリジナルコンテンツ「U-50（アンダー50）」では、市内の若手エースを10人紹介しました。

また、5月にTwitterを開始し団体の活動やセンターのイベント、講座情報等を発信したほか、Instagramでは市内の市民活動の現場の写真を募集し、集まった写真をフリースペース等に掲示するなど、事業展開にSNSを積極的に活用しました。

各サイトアクセス数など

	応援ナビかわさき	推進事業ウェブサイト
アクセス総数	64,150（月平均5,346）	67,531（月平均5,628）
ユーザー数	43,475	51,415
新規セッション率	88.4%	90.4%
平均ページビュー	3.29	1.92
直帰率	60.27%	74.75%

(3) 活動促進事業

ア ごえん楽市の開催

市民に広く市民活動を伝える場、団体の交流の場として、3年ぶりに中原市民館及びかわさき市民活動センターを会場に、10月1日（土）に開催しました。当日は65団体（新規15団体）が出展し、約1,200人の来場がありました。

パネル展示48団体、団体企画10件、フリースペース19団体、パフォーマンス4団体の参加がありました。なお、フリースペース内は「つながるマルシェ」として開催しました。

主催者企画では、川崎市農業振興課と協働でパネル展示「農と食と市民活動」を実施したほか、「川崎市内7区のSDCの取り組み」パネル展示などを実施しました。

また、10月の1か月間を「ごえん楽市・団体PR月間」として、センターフリースペース内での団体活動紹介パネル展示及び団体紹介動画の上映を行いました。

また、センターYouTubeチャンネルでの動画の公開も行っています。



多目的ホール内での団体活動紹介パネル展示

イ ごえんカフェの開催

団体や企業が分野を越えて交流し、新たな連携協働の芽が生まれる場として、ごえんカフェを11月23日（水・祝）にセンターフリースペースで開催し、31人の参加がありました。

ウ とともにカフェの開催

団体同士の連携やつながりづくりを目的とする「とともにカフェ」を、7月2日（土）午前・午後、7月23日（土）、12月3日（土）、2月12日（日）の計5回、センターフリースペースで開催しました。対象は、1・2回目が2022年度かわさき市民公益活動助成金交付団体、3回目が大学連携事業への参加団体、4回目が「強み」を持ち寄ってつながることに関心のある団体、5回目が「つながるマルシェ」出展団体で、合計37団体の参加がありました。

エ つながるマルシェの開催

市民活動団体の宣伝と収入確保を支援する「つながるマルシェ」を、ごえん楽市のほか3月19日（日）、ららテラス 武蔵小杉（施設外周部）で開催しました。8団体が出展し、体験ワークショップや販売を行いました。当日の来場者は親子連れなどで1,400人と賑わいました。

オ 大学と市民活動団体との連携・協働の支援

専修大学ネットワーク情報学部の授業で学生たちが市民活動団体（9団体）と一緒に広報媒体を制作する取組を支援しました。

2月3日（金）には、学生がその成果を発表する「かわさきNPO映像交流会」を、フリースペースで3年ぶりに開催しました。



3年ぶりのリアル開催となった映像交流会

カ 市民活動メッセージボードの設置

団体の広報活動を支援することを目的に、団体が各種情報を月ごとに掲示できるメッセージボード（パネル）をフリースペースに設置し、18団体が活動紹介やイベント告知などの掲示を行いました。

(4) 研修・人材育成事業

ア パワーアップセミナーの開催

市民活動団体の課題解決とスキルアップに係るテーマで全10回開催しました。受講者アンケートによると、各講座への満足度は平均97.6%となりました。各回の概要については【14頁：別表1①】【14頁：別表1②】【15頁：別表1③】に記載しています。

イ 市民記者養成講座の開催

神奈川新聞社報道部の社員や元川崎総局長、市民記者（現役）を講師に招へいし、記事の取材や編集方法等についての基礎講座を2023年1月18日から3月1日までの間に5回開催しました。10人の受講者のうち、8人が2023年度からの新たな市民記者として登録しました。

(5) 相談事業

ア 職員による市民活動相談の実施

ボランティア活動を始めたいという相談、団体の設立や運営に関する相談、企業からの社会貢献活動の相談など、市民活動全般に関わる相談をセンター職員が対応し、年間で69件の相談がありました。

イ 専門相談の実施

土業のワンストップ体制による専門相談の実績は以下のとおりです。

区 分	件 数	共 催
会 計 相 談	5 件	東 京 地 方 税 理 士 会
法 務 相 談	3 件	行 政 書 士 オ レ ン ジ 会 （ 行 政 書 士 会 川 崎 南 支 部 有 志 ）
	1 件	神 奈 川 青 年 司 法 書 士 協 議 会
法 律 相 談	1 件	か わ さ き リ ー ガ ル サ ポ ー ト ひ ま わ り （ 弁 護 士 に よ る 任 意 団 体 ）

10件のうちオンライン相談は3件ありました。

(6) 連絡・調整事業

ア 市・区の市民活動支援担当者との定期的情報交換会等の開催

市民文化局市民活動推進課との定例会を1回開催しました。

イ 中間支援ネットワーク会議の開催

市内の市民活動に係る中間支援ネットワーク会議を12月21日と3月16日の2回開催し、それぞれ5機関が参加し情報交換を行いました。

ウ 川崎市社会福祉協議会との連絡調整会議の開催

川崎市社会福祉協議会・ボランティア活動振興センターとの連絡調整会議を4月21日に開催し、事業計画についての情報交換及び共催事業に関する調整等を行いました。

(7) 職員等派遣事業

各団体の要請に基づき、役員13回、職員38回を講師等として派遣しました。派遣先の主催者や対象者等については【15頁：別表2（ア）】【16頁：別表2（イ）】に記載しています。

(8) かわさき市民公益活動助成金運営事業

2022年度かわさき市民公益活動助成金運営事業（募集期間：2021年11月19日～2022年3月4日）に関わる審査等の実施状況は、次のとおりです。

審査委員会	第二次審査（5月14日、15日） 〔第一次審査（書類審査）3月9日、3月14日〕
審査結果	・スタートアップ助成 申請 10 団体 交付 10 団体 交付金額 899,460 円
	・ステップアップ助成（30・100・200） 申請 32 団体 交付 26 団体 交付金額 13,846,403 円
	・コラボ 50 助成 申請 3 団体 交付 2 団体 交付金額 768,000 円
	・U-25 応援チャレンジ助成 申請 0 団体 交付 0 団体 交付金額 0 円
	・組織基盤強化助成 申請 5 団体 交付 5 団体 交付金額 1,200,000 円
交付総額	16,713,863 円 (内訳 = 川崎市：13,388,863 円・河川財団：3,325,000 円)

上記組織基盤強化助成のほか、職員による伴走支援として事業報告書作成に向けた中間ヒアリングを15団体に対して行いました。

また、2021年度助成金交付団体の公開事業報告会を4月10日（日）に実施しました。

※組織基盤強化助成の事業報告のみ6月19日（日）に組織基盤強化フォーラムとして実施。

(9) 川崎市からの受託事業

ア 川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度の窓口業務

川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度の窓口業務を受託しました。2022年度の状況は、次のとおりです。

申請件数（対象）	支払済件数	支払済額	2022年度実績
30件（23）	14件	379,700円	1,940,673円

イ 川崎市協働・連携ポータルサイト「つなぐっどKAWASAKI」管理・運営事業

川崎市から、協働・連携ポータルサイト「つなぐっどKAWASAKI」のコンテンツ情報の拡充などを行う管理・運営業務を受託しました。

情報の拡充に努め、各コンテンツページの情報更新のほか、「まちレポ」への記事を30本掲載しました。また、「応援ナビかわさき」に掲載した団体情報及び助成金情報を「つなぐっどKAWASAKI」に転載しています。

(10) 職員研修

職員の資質向上や必要とする知識習得等を目的に、市内外で開催される研修やシンポジウムなどに派遣しました。派遣した研修の内容等については【18頁：別表3】に記載しています。

(11) 賛助会員の確保

事業成果報告書を活用するなど賛助会員の拡充に努めた結果、2022年度の収入状況は、次のとおりとなりました。

種別	会費 (1口)	2021年度			2022年度		
		会員数	口数	賛助総額	会員数	口数	賛助総額
個人会員	1,000円	59人	204口	204,000円	52人	141口	141,000円
団体会員	5,000円	27団体	36口	180,000円	24団体	26口	130,000円
合計		86人・団体	240口	384,000円	76人・団体	167口	271,000円

(12) 募金・寄付等の取組

ア ボランティア・市民活動募金

募金箱を当センター窓口やご協力を得た市内事業者各店舗へ設置しています。募金箱その他を合わせて、2022年度は88,277円の寄付がありました（前年度351,238円）。また、個人からの寄付金が63,444円ありました。

イ 不用品買い取り額の寄付

自主財源を確保する方策として、ブックオフオンラインを通じて不用品の買い取り金額がセンターへ送金される仕組み（「キモチと。」）によって62,262円の寄付がありました。

(13) その他

ア 後援名義の使用許可

申請のあった18団体に対して、後援名義の使用を許可しました。

イ 表彰推薦

以下の表彰に推薦を行い、受賞が決定しました。

表 彰	推 薦
令和4年度川崎市社会功労賞	認定NPO法人秋桜舎 理事長 渡辺ひろみ氏
令和4年度川崎市社会福祉協議会会長	NPO法人studioFLAT
令和4年度川崎市社会福祉功労者表彰	川崎市 あゆみの会
第27回神奈川県弁護士会人権賞	川崎市折鶴の会 代表 森政忠雄氏

【別表1】パワーアップセミナー

①センター単独開催セミナー

開催日	内 容 (敬称略)		参加数	開催場所
第1回 5月29日	テーマ	動画×SNS 元NHKディレクターが教える 動画をSNSで効果的に発信するコツ	17人	センター 会議室
	講師	中山望 (映像ディレクター)		
第2回 6月11日 ・25日	テーマ	伝わる・思わず手にとってしまう 相手に伝わる、魅力的なチラシづくりのコツ	15人	センター 会議室
	講師	並木節子 (かわさき市民活動センター職員)		
第3回 7月9日	テーマ	ブランディングで団体の価値を伝える	12人	センター 会議室
	講師	岡本克彦 (こすぎの大学)		
第4回 10月22日	テーマ	業の成果を見える化する設計図 ロジックモデルをつくる!	14人	センター 会議室
	講師	粉川一郎さん (武蔵大学 メディア社会学部教授)		
第5回 11月12日	テーマ	担当職員から学ぶ 採択される助成金申請のポイント	15人	センター 会議室
	講師	金田浩司 (かわさき市民活動センター職員)		
第6回 12月3日	テーマ	明日から実践できる資金調達入門 団体にあった活動を継続するコツ	17人	センター 会議室
	講師	徳永洋子 (ファンドレイジング・ラボ 代表)		

②川崎市社会福祉協議会との共催セミナー

開催日	内 容 (敬称略)		参加数	開催場所
第7回 1月14日	テーマ	富永さん対話で考える<団体の世代交代と継承> 次の担い手を育て・活動をひろげ・安定させるコツ	12人	センター 会議室
	講師	富永一夫 (NPO 法人 NPO フェュージョン長池 創業者)		
第8回 2月18日	テーマ	メンバーがイキイキと活動できる/組織と人が育つマネジメント	13人	センター 会議室
	講師	呉 哲煥 (NPO 法人 CR ファクトリー代表理事)		

③川崎市との共催セミナー

NPO法人向け特別講座

開催日	内 容 (敬称略)		参加数	開催場所
第9回 <会計> 1月28日 ・2月4日	テーマ	知っておきたい！NPO 法人の会計と労務の基本	13人	センター 会議室
	講師	原 淳子 (税理士・ビジョンとお金のナビパートナー®)		
第10回 <労務> 3月4日	テーマ	知っておきたい！労働・社会保険の基礎知識	9人	
	講師	佐川陽子 (社会保険労務士)		

【別表2】

(ア) 役員派遣状況

開催日	主催者	テ ー マ	対象	開催場所
8月3日	宮前市民館	あそびランドサポーター養成講座 ボランティアって？ 知っておきたいボランティア心得	市民	宮前市民館
9月6日	多摩区役所地域 みまもり支援 センター	健康づくりボランティア・ 食生活改善推進員養成教室 「地域で始めるボランティア： 健康長寿を目指して活動」	市民	多摩区役所
9月10日	川崎市公園 緑地協会	里山ボランティア養成講座 「ボランティアの心得」	市民	麻生スポーツ センター
9月26日	健康福祉局高齢者 在宅サービス課・ 認定NPO法人 かわさき創造 プロジェクト	2022年度シニアライフ講演会・ 第2部パネルディスカッション コーディネーター	市民	多摩市民館
9月27日	高津区役所地域 みまもり支援 センター	健康づくりボランティア・ 食生活改善推進員養成講座 「私にもできる地域のための ボランティア活動」	市民	高津区役所
10月20日	宮前区役所地域 みまもり支援 センター	健康づくりボランティア養成講座 「ボランティアと地区組織活動：地域 でボランティア活動を行うために！」	市民	宮前区役所
10月21日	川崎区役所地域 みまもり支援 センター	健康づくりサポーター・食生活改善 推進委員養成講座 「ボランティア活動ってなに？～楽し く続けていくために～」	市民	川崎区役所
11月9日	川崎市消費者行政 センター	消費生活サポーター フォローアップ講座 「高齢者の見守りに必要なコミュニケ ーションスキルの向上策」	市民	総合自治会館

11月21日	川崎区役所地域 みまもり支援 センター	川崎区すくすく子育てボランティア 養成講座 「ボランティア活動ってなに?～楽し く続けていくために～」	市民	川崎区役所
12月09日	多摩区役所地域 みまもり支援 センター	多摩区子育て支援者養成講座 「ボランティア～楽しく続けていくた めに～」	市民	多摩市民館
3月9日	文化財団	パラアートミーティング ゲストアドバイザー	市民	高津市民館
3月11日	宮前市民館	宮前市民館生涯学習交流集会 「これからの市民活動について」	市民	宮前市民館
3月30日	経済労働局	令和4年勤労者福祉セミナー ファシリテーター	市民	センター

(イ) 職員派遣状況

開催日	主催者	テーマ	対象	開催場所
4月27日	中原区役所 まちづくり推進部	中原区ソーシャルデザイン センター創出に向けた検討会	市民	オンライン
5月9日	川崎区企業市民 交流事業推進委員会	第1回交流推進部会	部会委員	オンライン
5月11日	川崎市 社会福祉協議会	第1回福祉教育推進会議	担当	川崎市総合福 祉センター
5月22日	多摩区役所 まちづくり推進部	多摩区地域デザイン会議	委員	多摩区役所
6月14日	川崎区企業市民 交流事業推進委員会	臨港中学校出前授業	中学生	臨港中学校
6月15日	中原区役所 まちづくり推進部	中原区ソーシャルデザイン センター創出に向けた検討会	市民	中原区役所
6月19日	(一社) ソーシャル コーディネート かながわ	神奈川の間支援の意見交換会	中間支援 機関関係者	オンライン
6月23日	川崎市幸区 社会福祉協議会	令和4年度第1回幸区社協ボラ ンティアセンター運営委員会	運営委員	福祉パルさい わい
7月21日	中原区役所 まちづくり推進部	第3回中原区ソーシャルデザイ ンセンター創出に向けた検討会	市民	中原区役所 ・オンライン
8月20日 ・9月24日	デジタルサポートの 会	令和4年度中原市民館 市民自主企画事業 「デジタルサポート支援事業」	市民	中原市民館
9月4日	危機管理本部	令和4年度川崎市総合防災訓練	関係機関 ・市民	犬蔵中学校
9月8日	川崎区企業市民 交流事業推進委員会	第2回交流推進部会	部会委員	川崎区役所

9月15日	専修大学経済学部	川崎市中原区の地域共創活動から考えるダイバーシティ・インクルージョン	大学生	NEC 玉川事業場
9月15日	中原区役所 まちづくり推進部	第4回中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会	市民	中原区役所・オンライン
9月26日	健康福祉局高齢者在宅サービス課・認定NPO 法人かわさき創造プロジェクト	2022年度シニアライフ講演会	市民	多摩市民館
10月14日	川崎市企業市民交流事業推進委員会	川崎高校附属中学校出前授業	中学生	川崎高校附属中学校
10月19日	中原区役所 まちづくり推進部	中原区SDC第1回YORIAI(定例会)	市民	中原区役所・オンライン
10月27日	専修大学ネットワーク情報学部	大学連携事業中間発表会	大学生	専修大学
11月21日	川崎市企業市民交流事業推進委員会	第2回川崎市企業市民交流事業推進委員会	委員会委員	川崎市役所
11月23日	さいわいソーシャルデザインセンター	まちづくり応援フォーラム	市民	幸区役所
11月23日	川崎市企業市民交流事業推進委員会	知ろう!学ぼう!かわさき企業市民交流Day	市民	川崎ルフロン
11月25日	川崎市市民文化局 コミュニティ推進部	NPO 法人設立事務説明会	市民	多摩区役所
11月26日	宮前区まちづくり協議会、宮前区役所 まちづくり推進部	第15回まちづくり広場 ラブみやまえ 宮前楽市	市民	宮前市民館
12月9日	川崎市社会福祉協議会ボランティア活動振興センター	令和4年度 第3回福祉教育推進会議	委員	総合福祉センター
12月11日	川崎市市民文化局 コミュニティ推進部	まちのひろばフェス2022	市民	総合自治会館
12月11日	あさお希望のシナリオ実行委員会	活動報告会	市民	麻生区役所
12月12日	川崎市役所 まちづくり推進部	川崎市ソーシャルデザインセンターモデル事業に関する交流会	市民	東田公園コミュニティハウスさくら
12月13日	公益財団法人公園緑地協会	花と緑のまちづくり講座	市民	市総合自治会館
1月19日	専修大学ネットワーク情報学部	大学連携事業学内発表会	大学生	専修大学
1月27日	川崎市企業市民交流事業推進委員会	富士見中学校出前授業	中学生	富士見中学校
1月29日	川崎市市民文化局 コミュニティ推進部	川崎ワカモノ未来PROJECT「アクションDAY」	高校生	コモレビテラス

1月30日	さいわいソーシャルデザインセンター	幸区版まちの資源マップをつくろう(5)	市民	新川崎タウンカフェ
2月12日	川崎市市民文化局 コミュニティ推進部	川崎ワカモノ未来 PROJECT 成果発表会 「ハナサク Presentation」	高校生	川崎市役所 第4庁舎
2月13日	川崎区企業市民 交流事業推進委員会	第3回交流推進部会	部会委員	川崎区役所
2月18日	川崎市青少年科学館	令和4年度「天文サポーター研修会」	天文サポーター登録を目指して研修会に参加する受講生	川崎市 青少年科学館
3月13日	川崎市幸区 社会福祉協議会	令和4年度第2回幸区社協ボランティアセンター運営委員会	運営委員	さいわい健康福祉プラザ
3月18日	川崎市幸市民館	令和4年度幸市民館 生涯学習交流会	グループ・市民	幸市民館
3月30日	川崎市経済労働局 労働雇用部	令和4年度勤労者福祉セミナー	市民	センター

【別表3】職員研修

開催日	主催者	内 容	開催場所
4月23日	NPO 支援財団 研究会	NPO 支援財団研究会 2021WEB シンポジウム	オンライン
4月22日	NPO 支援財団 研究会	WEB シンポジウム「多様化する NPO の 資金源と助成金のメリット ～よりよい助成申請をするために」	オンライン
6月12日	日本 NPO 学会	第 24 回研究大会	オンライン
6月28日	川崎市社会福祉協議 会・ボランティア 活動振興センター	ボランティアコーディネーター研修「災害 ボランティアセンターマッチング体験」	総合福祉 センター
7月15日	かきのたね	カワはつキックオフイベント	溝ノ口カレー
8月3日 ・8日・25日	日本 NPO センター	NPO 支援センター初任者研修会 2022	オンライン
8月3日	ヤフー株式会社	NPO のための「情報発信」講座 ～サービス担当が伝える「伝わる社会課題」	オンライン
8月10日	ヤフー株式会社	NPO のための「情報発信」講座 ～サービス担当が伝える「伝わる SNS」	オンライン
9月28日	ヤフー株式会社	「伝わる社会課題」フォローアップ講座	オンライン
10月18日	LINE 株式会社	LINE 公式アカウント活用講座	オンライン

11月15日	一般社団法人ソーシャルコーディネート かながわ	ボランティア活動支援施設 新任スタッフ研修会	オンライン
12月7日 ・8日	日本NPOセンター	「伝えるコツ」セミナー（オンライン）	オンライン
12月9日	かながわ県民活動 サポートセンター	相談対応力向上研修 （事例を用いた相互学習会）	かながわ県民 センター
12月14日	日本NPOセンター	（NPO支援センター講座担当向け） 来年度計画のタネを持ち寄り・語り合う会	オンライン
12月17日 ・18日	日本ボランティアコ ーディネーター協会 （JVCA）	市民の参加と協働を進める コーディネーション研究集会	オンライン
1月25日	川崎市市民文化局 コミュニティ推進部	協働・連携研修「ハコモノを用意すれば いいの？ 持続的に素敵なつながりを育む 場づくりの仕掛けとは」	川崎市役所 第4庁舎
2月7日	ヤフー株式会社	NPO向け講座「伝わる活動紹介の初歩」	オンライン
2月7日	川崎市市民文化局 コミュニティ推進部	NPO法人事業報告書等作成事務説明会	中原区役所
2月7日	川崎市市民文化局 コミュニティ推進部	NPO法人向け「認定・条例指定制度説明会」	中原区役所
3月16日	パーソルワークス デザイン株式会社	元気365フォローアップセミナー	オンライン

2 青少年健全育成事業

2022年度の主な取組は次のとおりです。これまでの経験と知識を活かし、こども文化センター53館・わくわくプラザ102施設等の適切な管理・運営に努めました。

(1) こども文化センター事業

ア 基本方針

子どもたちの安全確保を旨とし、遊びや行事等にも工夫を凝らし、子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所づくりに取り組むとともに、様々な世代が集まる地域の拠点としての機能の強化にも取り組みました。

新型コロナウイルス感染症については、11月21日より、Withコロナに向けた運営となり、基本的な感染防止対策を行いながらの通常運営に移行しました。新型コロナウイルスに伴う段階的な運営については【33頁；別表1】に記載しています。

地域包括ケアシステムの推進については、グループや館単位で地域みまもり支援センター地域ケア推進課等を講師に招いた研修を実施して、地域包括システムの理解を深めるとともに、地域人材や団体と連携した行事の開催に努めました。

また、より良い運営を行うための参考として満足度調査を実施しました。満足度調査は、今後、毎年実施します。

こども文化センター利用状況推移表

利用者種別	2018年度(コロナ禍前) (52館)	2021年度 (53館)	2022年度 (53館)	前年度比較 (増減)
乳幼児	308,506人	190,505人	213,765人	23,260人
小学生	680,606人	394,623人	511,360人	116,737人
中学生	176,792人	115,635人	129,659人	14,024人
高校生	32,624人	22,708人	21,603人	▲1,105人
成人	413,773人	282,359人	325,099人	42,740人
利用者合計	1,612,301人	1,005,830人	1,201,486人	195,656人
(一館あたり)	(31,006人)	(18,978人)	(22,670人)	(3,692人)
内団体利用人数	271,519人	173,810人	186,538人	12,728人

※2020年8月に小杉こども文化センターが開設され、53館となりました。

※2019年度3月～2022年度9月は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、臨時休館、利用時間の変更、運営内容の制限等を設けて運営しました。

こども文化センター満足度調査結果

対象	こども文化センター利用者（乳幼児親子、小学生、中学生、高校生、成人）		
実施期間	11月21日～12月18日	回答者数	3,281人
調査方法	アンケート用紙配付による調査		
	調査項目	満足度	
	こども文化センターは楽しく過ごせますか？	96.5%	
	こども文化センターの行事は充実していると思いますか？	80.2%	
	施設の利用ルールは分かりやすく、安心して利用できますか？	94.1%	
	施設の職員は対応がよく、相談しやすいと思いますか？	92.8%	
	施設の清掃は行き届いていると思いますか？	91.3%	
	総合満足度（平均）	91.0%	

イ 地域人材の育成と活動の場の提供

(ア) 運営協議会との連携強化

全てのこども文化センターでは、地域と連携した館運営を行うために、地域の方々が委員となった運営協議会を設置しています。運営協議会では、こども文化センターの様々な課題について協議を行い、施設利用のルール作りや地域団体との橋渡しを担うとともに、行事等にも積極的に参画する等、その役割は多岐にわたっています。全市で196回（各館平均4回）の運営協議会が開催され、延べ1,833名の運営委員の方に参加していただきました。

また、各館では、運営協議会の委員の方々に、多くのご支援・ご協力をいただき「MARUCO de 天井プラネタリウム」「備えよう！みんなで机上防災講座」「あつまれ！防災レンジャー」「ボーイスカウト体験会」「虫はかせになろう」「枳形クリーンアップ大作戦」等の特色ある行事を開催しました。

各館の運営協議会で出された意見や結論を集約し、行事日程や事業内容の確認・調整等、こども文化センターの運営に活かしました。



虫はかせになろう

(イ) 地域活動の担い手の育成機能強化

利用児童で組織する「子ども運営会議」は、延べ732回（各館平均14回）開催され、延べ4,087人（各館平均77人）が参加しました。子どもたち自身の企画・運営により「ボランティアクラブによる清掃活動等」「イルルンフェスタ2022」「カードゲーム大会」「もうすぐ中学生自主企画」「ミニミニたいらっこまつり」「グリーンボランティア」等、様々な行事が実施されました。



もうすぐ中学生自主企画

また、中学生・高校生の利用に際しては、主体的な活動の尊重・支援を基本とし「eスポーツ大会」「ひまわりをそだてよう」「ボードゲーム体験」「大乱闘カードゲームブラザー

ズ」「フリースローチャレンジ」「シラハロウィン」等、様々な工夫を凝らした行事に取り組みました。

さらに、SDGsの取組として、「2022ボトルキャップでアート」（主催：ファンズスポーツクラブ）にて、渡田こども文化センターの作品が最優秀賞を受賞しました。

これらの活動を通じて、子ども自身が地域の一員であることを自覚できるよう取り組み、地域活動の担い手となるよう育成・支援を図りました。



キャップアート作品

（ウ） 活動の場の提供機能強化

こども文化センターは地域の児童の健全育成に寄与するという目的施設ですが、児童の利用が少ない時間帯については、地域のボランティアや市民活動団体等の方々の活動の拠点として利用していただいています。

また、市民活動団体や地域の方々に協力いただき「殿カフェ」「ナイトヨガ」「コラボフェスタ」「親と子の子育て応援セミナー」「こぶんでミニ化石発掘体験」「スイートハンドのおんがくとあそぼう♪」「ピラティス体験会」「産後ケアヨガ」「しめ縄飾り」「みたっこギャラリー&専修大学マジックショー」「介護予防イキキ体操」等を実施し、連携を強化しました。



スイートハンドのおんがくとあそぼう♪

こども文化センター団体利用状況推移表

団体種別	2018年度(コロナ禍前) (52館)	2021年度 (53館)	2022年度 (53館)	前年度比較 (増減)
青少年	2,943団体	2,509団体	2,819団体	310団体
市民活動	10,407団体	9,850団体	10,748団体	898団体
幼児G	5,645団体	4,747団体	4,784団体	37団体
その他	454団体	456団体	395団体	▲61団体
計	19,449団体	17,562団体	18,746団体	1,184団体

※ 2019年度3月～2022年度9月は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、臨時休館、利用時間の変更、運営内容の制限等を設けて運営しました。

音楽室が設置されているこども文化センター4館については、新型コロナウイルス感染症予防対策として、状況に応じて音楽室の利用制限を設けながら利用していただいた結果、中学生・高校生のほか、地域音楽活動の拠点として延べ3,427団体、4,314人が音楽室を利用しました。

新型コロナウイルスに伴う音楽室の利用制限については【34頁；別表2】、各施設の利用状況については【34頁；別表3】に記載しています。

(2) わくわくプラザ事業

ア 基本方針

わくわくプラザは、すべての小学生を対象としています。そのため、日頃から小学校との連携を密にして、子どもたちの様子や学校の月間スケジュール、わくわくプラザの行事日程等の情報交換を行っています。子どもたちが、放課後・土曜・長期学校休業日等に安心して楽しく過ごすことのできる、また、保護者が安心して子どもを託すことができる事業運営に努めました。

新型コロナウイルス感染症については、12月1日より、Withコロナに向けた運営となり、コロナ禍の間続けてきた、利用対象の制限を解除し、基本的な感染防止対策を行いながらの通常運営に移行しました。

また、より良い運営を行うための参考として満足度調査を実施しました。満足度調査は、今後、毎年実施します。

わくわくプラザ利用状況推移表

種 別	2018年度(コロナ禍前) (101施設)	2021年度 (102施設)	2022年度 (102施設)	前年度比較 (増減)
在 校 児 童 数	65,731人	66,324人	66,382人	58人
登 録 児 童 数	31,934人 (1,049人)	22,327人 (1,484人)	22,461人 (1,728人)	134人 (244人)
登 録 率	48.6%	33.7%	33.8%	0.1%
利 用 人 数	2,132,105人 (98,509人)	1,613,947人 (139,631人)	1,889,984人 (182,485人)	276,037人 (42,854人)
1 日 平 均 利 用 者 数	7,302人 (337人)	5,508人 (477人)	6,450人 (623人)	942人 (146人)

※ 2019年度3月～2022年度9月は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、利用対象や運営内容に制限を設けて運営しました。

※ () 内は特別な支援を必要とする児童の内数です。2019年度より、特別な配慮を要する児童の対象範囲が拡大されました。

わくわくプラザ満足度調査結果

対象	わくわくプラザ利用児童保護者		
実施期間	11月21日～12月18日	回答者数	2,483人
調査方法	WEB (アンケートシステム) による調査		
	調査項目	満足度	
	お子様はわくわくプラザを楽しそうに利用していると思いますか?	83.2%	
	わくわくプラザの行事は充実していると思いますか?	66.4%	
	安全が確保されており、安心して利用できると思いますか?	90.9%	
	活動内容は保護者に伝えられていると思いますか?	63.4%	
	スタッフは対応が良く相談しやすいと思いますか?	85.4%	
	総合満足度 (平均)	77.9%	

イ プログラムの充実

利用児童で組織する「子ども運営会議」は、延べ1,318回（各わくわくプラザ平均13回）開催され、合計36,132人（各わくわくプラザ平均354人）が参加し、子どもたち自身の企画・運営により「いこいの家へプレゼント」「わくわくなつまつり」「保育園を訪問しよう～ちとせやまゆり保育園～」「パラスポーツ体験～ボッチャ～」

「KOSUWAKUソーラン」「グループホーム愛の家へ行こう」等、様々な行事が実施されました。

また、各施設の地域状況に応じて、関係機関（幼稚園・保育園、学校、老人いこいの家、高齢者施設、地域の寺子屋、子ども会、地域団体・人材、企業、行政機関等）と連携して「なにこれ？ どうあそぶの？ 韓国のユンノリあそび」「プログラミング体験 エジソンロボットをゴールまで運ぼう！」「歯科衛生教育」「SDGs学習会」「みんなの地球を守れ～水と未来プロジェクト～」「和太鼓演奏&体験会」等を実施し、子どもたちに様々な体験活動を提供しました。



コズミックカレッジ

ウ 学習タイムの実施

子どもたちの学習習慣の形成を図り、落ち着いて自学・自習ができる時間と場所を確保するため、平日の17:00～17:30までを、学習タイムとし、利用児童全てがこの時間帯に、学校の宿題や持参した学習ドリル等に取り組みました。土曜日・長期学校休業日等については、時間帯や活動時間は各施設のプログラムに合わせて、必ず実施しました。

また、宿題が終わった児童等に、東京学芸大学こども未来研究所と朝日新聞社の共同研究を活用したあそびのプラットフォーム「すき！がみつかる 放課後ののしーと」を提供し、遊びながら勉強に取り組める環境を整えました。

エ 「地域の寺子屋」との連携

川崎市は、元教員、地域住民、学生、保護者等が寺子屋先生となり、週1回、放課後に学習支援を行い、月1回、体験学習・世代間交流のイベントを実施する「地域の寺子屋事業」を推進しています。

わくわくプラザにおいては「地域の寺子屋事業」の学習支援の取組を見学するほか、土曜日に開催される体験教室「歌とダンスを楽しもう ミュージカル体験」「ダブルダッチに挑戦」「凧作り」「地域の寺子屋 体験教室」「コズミックカレッジペンシルロケットを飛ばそう」に参加しました。

また、寺子屋事業者に講師を依頼し「ピカピカどろ団子」「寺子屋マジックショー」を開催し、連携を強化しました。



ピカピカどろ団子

オ 子育て支援・わくわくプラザ事業への対応

「子育て支援・わくわくプラザ事業」とは、川崎市が実施している事業で、就労等により、わくわくプラザが終了する午後6時までに児童のお迎えが難しい保護者のため、午後7時までわくわくプラザを延長するサービスのことです。当財団は、この業務を川崎市から受託し、全てのわくわくプラザで実施しました。

子育て支援・わくわくプラザ利用状況推移表

種 別	2018年度(コロナ禍前) (101施設)	2021年度 (102施設)	2022年度 (102施設)	前年度比較 (増減)
登 録 児 童 数	2,601人 (67人)	2,261人 (109人)	2,270人 (132人)	9人 (23人)
延 べ 利 用 人 数	140,576人 (4,360人)	74,493人 (4,476人)	79,155人 (6,488人)	4,662人 (2,012人)
1 日 平 均 利 用 人 数	576人 (15人)	307人 (18人)	326人 (27人)	19人 (9人)

※ () 内は特別な支援を必要とする児童の内数です。2019年度より、特別な配慮を要する児童の対象範囲が拡大されました。

(3) こども文化センター・わくわくプラザ共通事項

ア 財団独自の取組

(ア) 複数館による合同事業の開催

同一区内又はグループ内児童の親睦と交流の輪を広げることを目的として、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、様々な行事に取り組み、延べ4,810人が参加しました。合同事業については【35頁；別表4】に記載しています。

また、子どもたちが共通の遊びに挑戦し記録を競う「こんちゃれ(今月のチャレンジ)」を毎月実施し、幼児から高校生までの延べ37,225人が参加しました。

(イ) いのちの大切さを伝える事業

子どもたちが「いのちの大切さ」について考える機会を設けるため、各施設で「TOYOTA環境こどもプログラム」「赤ちゃんとおふれあおう」「カイコの生涯・命の大切さ」「多摩川水族館」「人権って何だろう」「わんにゃんパラダイス」「リーディング劇」等の事業を実施しました。

また「いのちの大切さを伝える読み聞かせ事業」として「へいわってすてきだね」「うまれてきてくれてありがとう」(新城こ文)「へいわとせんそう」「みんなからみえないブライアン」等の本を読み聞かせました。

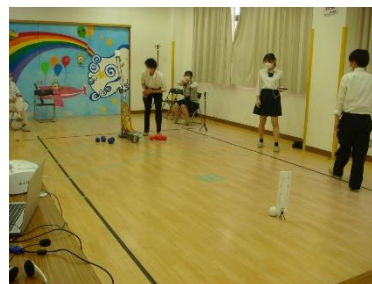
さらに、例年「被爆体験紙芝居」を実施してくださるNPO法人ナガサキピーススフィア員の火運動と連携し、4施設で紙芝居の朗読を開催したほか、「いのちの大切さを伝える事業～『百年の笑顔へ』世界の子どもの笑顔のパネル展～」を、7施設のこども文化センター、わくわくプラザで実施しました。



わんにゃんパラダイス

(ウ) 多様性への理解を深める事業

子どもたちが年齢・性別・障がい・国籍等、多様な人々への理解を深め、相手を思いやり、互いに認め合うことができる豊かな心を育成するため「親子向け認知症サポーター養成講座」「オンラインボッチャ」「スペインを知ろう」「SDGs中国文化を知ろう!」「外国の方がやってくる」「紙芝居で世界の子どもたちと友だちになろう!」「手話体験&手話ソング発表会」「ブラジル文化体験」等を実施し、多様性への理解を深める取り組みを推進しました。



オンラインボッチャ

イ 多世代連携について

各施設では、地域の様々な特技・知識等を持つ方々にボランティア講師となっただき、地域の子どもと大人が共に遊び、育み合う環境を醸成する取り組みとして「世界の言葉で遊ぼう」「ラクロス体験会」「FAMILY JAZZコンサート」「ちよこぶんプラネタリウム」「富士電機理科教室」「ルービックキューブで遊ぼう」「ジオラマがやってくる～鉄道模型とジオラマの世界から」「わくわく時代劇スペシャル」「あんどんナイト」「神庭・里山を楽しむ会との交流」「将棋交流会」「機織りに挑戦しよう!コースター作り」等、様々な事業を実施し、ボランティアと子どもたちの交流を推進しました。



こども文化センターまつりの様子

ウ 学校及び行政機関等との連携

円滑な事業運営に資するために、地域で開催される様々な会議（生涯学習推進会議、地域教育会議等の会議）に出席し、地域情報を得るとともに、こども文化センター・わくわくプラザの情報を提供する等、情報の共有を図りました。

また、区役所（地域みまもり支援センター等）、地域団体（子ども会等）が実施する行事に積極的に参加し、地域関係機関等との連携強化に努めました。

なお、区役所等が主催する子育てフェスタ等のイベントへの参加、出展については、次の通りです。

主催者	開催日	事業名（総数）	内容（参加数）	開催場所
令和4年度かわさき区子育てフェスタ実行委員会	10月29日	川崎市子育てフェスタ2022 (255人)	138名	教育文化会館
幸区役所	10月15日 ～11月6日	外に飛び出そう!みんなで 子育てフェアさいわい (1,766名)	281名	幸区こども文化センター6館を含む 幸区施設全56ヶ所
中原区	10月22日, 11月4,5日	なかはら 子ども未来フェスタ (730人)	アーケード制作(4人) 展示	グランツリー 武蔵小杉
宮前市民館	10月21日	みやまえ 子育てフェスタ2022 (1,000人)	プラバン (300人)	宮前市民館

たまたま子育て まつり実行委員会	9月18日	たまたま子育てまつり	ワークショップ (323人)	多摩区役所
麻生区役所	9月17日	あさお子育てフェスタ (1900人)	ダンボール迷路 (450人)	麻生市民館

※参加数は、各こ文から引率参加した児童数及び出店したブース等に参加した児童数の合計です。

エ 特別な配慮を必要とする利用者への対応方法

特別な支援を必要とする児童に対し、より適切な対応が行えるよう、元特別支援学校の教諭や小学校の校長経験者等の巡回相談員を8人配置しました。巡回相談員は、豊かな経験と専門知識を持ち、当該業務に従事するスタッフのアドバイザーとして、またスタッフ研修の講師として活躍しました。

また、学校や家庭との日頃からの連携・情報の共有に努めるとともに、発達相談支援センター・児童相談所・地域療育センター、放課後デイサービス等の関係諸機関との連携強化にも取り組みました。

オ 安全・安心の確保

(ア) 事故について

児童の安全・安心の確保は本事業の基本であり、職員一人ひとりがそのことを常に念頭に置いて日々の業務にあたるよう心がけました。

また、遊具の安全確認、適切な見守り配置、子どもたちへの声掛け、準備運動等、様々な取り組みについて定期的に見直すとともに、館長会議や各施設の会議にて、他施設での事故事例を共有し、類似事故の防止対策を検討することにより、本部・各館が一丸となって事故ゼロ運動を推進するとともに、利用児童が怪我を負った場合は「事故対応マニュアル」に基づいて、迅速かつ適切な対応に努めました。

① こども文化センターでの事故について

こども文化センターで起きた20件の事故のうち、11件は集会室でボール遊びをしているところで発生しました。また、団体利用中の成人による事故が3件ありました。

こうした事故を未然に防ぐため、職員の定期的な見守りと声かけを強化するとともに、特に集会室で遊ぶ児童に対しては事前の注意喚起を行うよう徹底しました。

過去5年間のこども文化センターにおける事故の件数

月	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
4月	2 (0)人	0 (0)人	0 (0)人	3 (0)人	0 (0)人
5月	3 (1)人	2 (1)人		1 (1)人	1 (0)人
6月	4 (2)人	2 (2)人		1 (1)人	0 (0)人
7月	1 (0)人	2 (0)人	0 (0)人	2 (2)人	1 (0)人
8月	3 (1)人	3 (1)人	1 (0)人	1 (1)人	1 (0)人
9月	2 (1)人	2 (0)人	0 (0)人	0 (0)人	3 (2)人
10月	2 (0)人	3 (0)人	1 (0)人	2 (1)人	2 (0)人
11月	4 (1)人	1 (1)人	0 (0)人	1 (0)人	4 (2)人

12月	2 (1)人	1 (1)人	1 (0)人	0 (0)人	1 (0)人
1月	1 (1)人	1 (1)人	0 (0)人	2 (0)人	2 (1)人
2月	2 (0)人	0 (0)人	1 (0)人	3 (0)人	1 (1)人
3月	0 (0)人	0 (0)人	0 (0)人	0 (0)人	4 (1)人
計	26 (8)人	17 (7)人	4 (0)人	16 (6)人	20 (7)人

* () は4日以上通院の事故内数(2023年3月31日現在)

*緊急事態宣言により、臨時休館(2020年4月11日～5月31日)

② わくわくプラザでの事故について

わくわくプラザにおける事故件数は215件となっています。発生率の高い怪我としては、擦傷・打撲109件、骨折(ヒビ含む)30件、捻挫・突き指22件が挙げられます。対策として、日々の準備運動や注意喚起を強化するよう指示したほか、わくわくプラザ担当者研修では、昨年度、無事故だったわくわくプラザの取り組み事例を基に事故防止について学ぶ機会を設けました。

過去5年間のわくわくプラザにおける事故の件数

月	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
4月	21 (5)人	15 (3)人	6 (2)人	20 (2)人	17 (3)人
5月	14 (2)人	11 (3)人	2 (0)人	15 (4)人	14 (1)人
6月	15 (4)人	18 (4)人	6 (2)人	17 (1)人	18 (4)人
7月	11 (2)人	13 (4)人	15 (4)人	17 (1)人	17 (3)人
8月	8 (1)人	9 (1)人	7 (1)人	10 (1)人	17 (2)人
9月	4 (2)人	3 (0)人	9 (1)人	11 (1)人	27 (6)人
10月	9 (3)人	12 (4)人	14 (4)人	14 (3)人	21 (2)人
11月	16 (6)人	16 (3)人	16 (1)人	12 (2)人	22 (3)人
12月	10 (0)人	10 (0)人	22 (4)人	17 (0)人	21 (2)人
1月	12 (2)人	11 (1)人	6 (0)人	10 (1)人	15 (3)人
2月	9 (0)人	8 (1)人	12 (2)人	7 (2)人	14 (3)人
3月	9 (0)人	3 (1)人	16 (3)人	12 (2)人	12 (2)人
計	138 (27)人	129 (25)人	131 (24)人	162 (20)人	215 (34)人

* () は4日以上通院の事故内数(2023年3月31日現在)

③ その他の場所での事故について

わくわくプラザの登下校時の事故は32件でした。児童が退室する際は、気を付けるよう注意喚起をするとともに、一人帰りの児童の保護者に対し、帰宅時間や経路について、児童と一緒に検討していただくよう、迎え時やたよりを通して働きかけました。

また、利用児童と共に安全マップを作成したほか、安全に関わる様々な行事を実施して、子どもたちの安全意識の向上に努めました。

さらに、作成した安全マップが、日本損害保険協会等が主催する「ぼうさい探検隊マップコンクール」において、応募総数1179作品（入賞22作品・佳作50作品）の中から、次の賞を受賞しました。



表彰式の様子
(東小田小学校わくわくプラザ)

消防庁長官賞受賞	東小田小学校わくわくプラザ
審査員特別賞	宮崎こども文化センター
佳作	枅形こども文化センター、鷺沼小学校わくわくプラザ、三田こども文化センター

(イ) 感染症予防対策

感染症、食中毒等の予防策として、手洗いを励行するとともに、児童の弁当や行事に使用する食品の管理を徹底しました。

また、新型コロナウイルス感染症予防対策については、次の取り組みを通して感染防止を図りました。

新型コロナウイルス感染症予防対策

衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> 当財団で雇用した産業医に、こども文化センター、わくわくプラザを巡視していただいた上で、衛生管理・換気等について、助言をいただきました。 産業医の助言に基づき、手洗い、手指消毒、マスクの着用、对人的距離の確保に努めたほか、適切な換気や、机・テーブル・ドアノブ等、利用者が手を触れやすい場所の消毒等を実施しました。
予算確保	<ul style="list-style-type: none"> 衛生用品等のための消耗品費として、こども文化センターに（15万円）、わくわくプラザに（12万円）を追加配当しました。 児童の接触を抑制するための図書費として、こども文化センター及びわくわくプラザに、7万円を追加配当しました。
感染判明時の対応	<ul style="list-style-type: none"> 当財団の職員や学校の教職員、児童等が、陽性となった場合は行政、学校等と連携し、速やかに室内を消毒しました。 わくわくプラザは、必要に応じて臨時休室の措置を取りました。夏季にオミクロン株のBA.5系統への置き換わりにより、児童の感染疑いの事案が急増した際には、関係機関と昼夜を問わない連絡体制を構築し、開室・臨時休室の判断及び利用者への周知を迅速に行いました。
ワクチン接種	<ul style="list-style-type: none"> 館長会議等を通じて、ワクチン接種についての情報等を伝え、接種を推進しました。 接種を受けるときのサービスの取扱いについて、接種に必要な時間は職務免除、接種後に副反応が発生した場合は特別休暇とし、職員が接種しやすい環境を整えました。

(ウ) 防災対策

災害に備え、毎月、訓練を実施し、避難訓練や防災用品等の点検を行うとともに、災害伝言ダイヤルを活用した連絡手段を利用者に周知しました。

また、わくわくプラザでは、災害時等の対応について小学校と確認し、保護者に対し

て、連絡、引き取り方法等を周知するとともに、警報等が発令された際には、配信メールシステムを使用して、わくわくプラザの対応を周知しました。

(工) その他の安全対策

① 防犯対策

各こども文化センターの外側に設置された防犯カメラを活用するとともに、訪問者の目的や様子を把握するため、職員からあいさつ等の声掛けを行い、不審者の侵入を抑制しました。

また、各施設が学校や地域から不審者情報を得た場合は、利用者に注意喚起するとともに、本部を経由して他施設に伝達し、事件・事故の予防に努めました。

② 食物アレルギーへの対応

次の基本ルールを遵守し、子どもたちのアレルギー事故防止に取り組みました。

施設名	対応策
共通	アレルギーのある児童が差別されないよう、食物アレルギーについての啓発活動に努める。 児童がアナフィラキシーショックを起こした場合に備え、アドレナリン自己注射薬（エピペン）の投与等、応急処置ができるようにアレルギー研修の受講を職員に義務付ける。
こども文化センター	当財団が単独で主催する行事等で食物を提供する場合は、事前申込制とし、アレルギーの確認については、児童ではなく、保護者にさせていただくことを基本とする。 共催行事等で、食物を提供する場合は、上記ルールの適用を保護者や関係者の理解を得ながら進める。
わくわくプラザ	わくわくプラザ登録時にアレルギーのある子どもの保護者に「食物アレルギー調査票」の提出をお願いし、さらにおやつ申込時に、原材料名（成分表）が記載されたメニュー表をもとに、保護者にアレルギーチェックをお願いする。 子どもにおやつを配布するときには、必ず複数の職員が「食物アレルギー調査票」に基づきチェックする。アレルギーとなる成分が入っているおやつについては、当該児童の保護者に手渡す。このとき、おやつが食べられなかった児童には、十分な説明をする。

カ 環境整備の推進

(ア) 基本方針

老朽化が進んでいるこども文化センターの中には、建替え又は大規模修繕が必要なものがいくつかあります。今後、こうした施設の取扱いについて、市との協議を進めるため、施設整備状況確認調査を実施しました。

(イ) 大規模修繕

30万円以上の施設・設備の修繕については、所有者である川崎市が行うこととなっておりますが、安全・安心の確保や環境整備の観点から緊急度が高い場合については、市と協議のうえ、指定管理者が行っています。今年度については当財団が実施した案件はありませんでした。

(ウ) 小規模修繕・軽工事

30万円未満の施設・設備・用具等の修繕については、指定管理者が行うこととなっています。施設や用具等の安全管理については、日ごろから点検を欠かさず、破損や故障を発見した場合は、迅速に対応しました。

今年度は「エアコン不具合への対応」「照明設備」「水まわり（主にトイレ）」「換気扇」等電機系統を中心に、合計339箇所（総額22,974,082円）の補修・改修の工事を実施しました。また、簡易的な補修や書棚、遊具棚等の製作においては、現場を熟知している元学校業務職の方々にご協力をいただき、迅速な対応を図りました。

キ 情報発信の取り組み強化

(ア) ホームページの活用

行事の開催・活動内容・団体への部屋の貸し出し状況等、施設に関する最新の情報を提供できるよう、定期的に掲載内容を更新しました。

(イ) かわさき子育てアプリの活用

行事の開催情報を定期的に更新し、子育て情報の周知に努めました。

※かわさき子育てアプリは、川崎市内の子育てに係る情報を配信するアプリケーション（ソフトウェア）です。

(ウ) 地域メディアの活用

かわさきFMで毎月第4月曜日に放送されている『まちかどからお届け』に出演しました。アナウンサーがこども文化センターを訪問し、館の行事予定や活動の様子等が、生放送で伝えられました。

ク 効果的な研修計画の策定・実施

青少年健全育成事業のサービス向上には、職員の資質向上が欠かせません。「新任館長・職員研修」等の勤務経験や職位に応じた各種研修を計画的に実施するとともに、グループ、館ごとに、地域性を重視した研修を実施しました。

また、川崎市や他の団体が主催で行う研修に積極的に参加し、職員のスキルアップや資格の取得を進めるとともに、職員が必要とする研修を効率・効果的に受講できるよう各館に職員ごとの研修受講記録を備えました。

各研修と受講者数については【37頁；別表5①】【38頁；別表5②】【42頁；別表5③】【44頁；別表5④】に記載しています。

ケ 教育実習・インターンシップ等への対応

昨年度まで、新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れを中止していた教育実習について、受け入れを再開し、実習生5名を受け入れました。また、社会体験研修として教諭1人を受け入れました。

また、小・中学校の児童生徒がこども文化センターを訪問するまち探検（社会科学見学）、

職業体験については、44館に延べ2,388人が来館しました。

施設ごとの受入状況については【44頁；別表6】に記載しています。

コ いじめ等による子どもの変化の気づきについて

いじめや虐待、不登校等、子どもを取り巻く社会問題は多様化・複雑化が進んでおり、痛ましい事件も後を絶ちません。

川崎市からも、虐待の疑い等の気づきがあった場合は組織的に対応し、複数の機関で見守る体制を整えることが求められています。

虐待が疑われる児童の報告フローや、早期発見のチェックリストを活用し、被虐待児の把握に努め、川崎市へ報告する体制を整えるとともに、各区要保護児童対策地域協議会に代表館長が出席し、情報共有に努めました。さらに今年度新たに、全市の要保護児童対策地域協議会代表者会議に本部係長が出席しました。

また、コロナ禍でのいじめについては、新型コロナウイルスの検査で陽性になった児童や、濃厚接触者として特定された児童が不利益をこうむらないよう、細心の注意を払って対応しました。

(4) 地域子育て支援センター（連携型）事業

「地域子育て支援センター（連携型）」とは、川崎市が実施している地域子育て支援事業の一つで、比較的利用の少ない午前中のこども文化センターを活用し、子育て中の親子の交流の場や子育てに関する相談・援助の場として、また、地域の子育て情報の提供の場として設置されています。当財団は、この業務を2ヶ所で受託し、「ふぁみいゆ」という名称で週3日（9：30～12：30）開設し、延べ4,951人の乳幼児親子が利用しました。

各施設の利用者数については【47頁；別表7】に記載しています。

【別表1】こども文化センターの段階的な運営

段階	期 間	利 用 時 間	主 な 運 営 内 容 等
学校の臨時休校・ 緊急事態宣言	2020年 3/4～ 4/10	月～土 9:30～21:00 日 祝 9:30～18:00	やむを得ない特別な事情で家に居ることが難しい 児童生徒以外の利用は自粛及び団体利用の中止
緊急事態宣言	4/11～ 5/31	臨 時 休 館	※緊急事態宣言は4月7日発令。対応、周知のため、4/11～臨時休館
第1段階	6/1～ 6/18	月～土 9:30～19:30	運動・飲食・行事・団体利用の禁止
第2段階	6/19～ 7/9	日 祝 9:30～16:30	個人で作業する活動・行事の再開 団体利用の再開（運動、夜間等を除く）
第3段階	7/10～ 10/12	月～土 9:30～20:30 日 祝 9:30～17:30	飲食の再開 複数名で作業する活動・行事の再開（運動を除く） 密集を伴わない運動の再開 夜間の団体利用の再開
第4段階	10/13～ 2021年 1/7	※利用時間は7/1～変更	定員50名以上の行事の再開 徒歩で行ける範囲での校外活動の再開 グループワークを含む行事の再開 大人による調理品を提供する行事の再開 歌唱・管楽器等の演奏を伴う行事の再開
緊急事態宣言 (2回目)	1/8～ 3/21	月～土 9:30～20:00 日 祝 9:30～17:30	第3段階の内容と同等 但し、調理を伴わないグループワークは実施可
緊急事態宣言 (2回目) 解除後	3/22～ 4/19	月～土 9:30～20:30 日 祝 9:30～17:30	感染者数のリバウンドや医療のひっ迫防止に努めるため、月曜日～土曜日の利用時間のみ変更し、運営内容は上段を延長
まん延防止等重点 措置	4/20～ 8/1		
緊急事態宣言 (3回目)	8/2～ 9/30		感染者の急増（特に児童の感染増）を鑑み、喫食の禁止、遊具の共有を禁止
緊急事態宣言 (3回目) 解除後	10/1～ 10/21		喫食、遊具共有の禁止を解除
第5段階	10/25～ 1/22	月～土 9:30～20:30 日 祝 9:30～17:30	管轄施設を超えて児童が集まる合同事業の再開 歌唱・管楽器等の演奏を伴う活動の再開 調理を伴う活動等の再開 公共交通機関を使用した活動の再開 まつり等の大規模な行事の再開
まん延防止等重点 措置	1/23～ 3/21		ほぼ第4段階の内容と同等 但し、喫食の禁止、遊具の共有を禁止
まん延防止等重点 措置解除後	3/22～ 4/19		ほぼ第5段階の内容と同等
第6段階	4/20～		キャンプやお泊り会等の宿泊を伴う事業の再開
第7段階 (通常運営)	11/21～ 2023年 3/13～	月～土 9:30～21:00 日 祝 9:30～18:00	基本的な感染防止対策（マスクの着用、手洗い、換気等）を行いながらの通常運営 マスクの着用については個人の判断とする ※わくわくプラザは、学校に準じ4/1から

【別表2】新型コロナウイルス感染症に伴う音楽室の利用制限

2020/4/11~5/31	臨時休館
6/1~10/12	グループ（複数人）での利用を禁止 個人（1名）または同居家族での利用は可能 消毒・換気をする時間を30分以上とれるよう利用時間を短縮
10/13~2021/1/7	対人距離を保てる定員を設定し、複数名での利用を可とする ※マスクを着用して歌唱、演奏。但し、管楽器等、マスクができない場合は、向かい合わせにならないようにする 5分程度の換気の時間を設ける
1/8~10/24	グループ（複数人）での利用を禁止 個人（1名）または同居家族での利用は可能 消毒・換気をする時間を30分以上とれるよう利用時間を短縮
10/25~2022/1/22	対人距離を保てる定員を設定し、複数名での利用を可とする ※マスクを着用して歌唱、演奏。但し、管楽器等、マスクができない場合は、向かい合わせにならないようにする 5分程度の換気の時間を設ける
1/23~3/21	グループ（複数人）での利用を禁止 個人（1名）または同居家族での利用は可能 消毒・換気をする時間を30分以上とれるよう利用時間を短縮
3/22~	対人距離を保てる定員を設定し、複数名での利用を可とする ※マスクを着用して歌唱、演奏。但し、管楽器等、マスクができない場合は、向かい合わせにならないようにする 5分程度の換気の時間を設ける

【別表3】音楽室の利用状況

施設名	利用者	2020年度	2021年度	2022年度	前年度比較 (増減)
南河原	小学生	1人	19人	23人	4人
	中学生	26人	101人	290人	189人
	高校生	151人	257人	62人	▲195人
	一般	91人	368人	365人	▲3人
	合計	269人	745人	740人	▲5人
	団体数	262団体	679団体	604団体	▲75団体
小杉 2020年8月 開設	小学生	35人	21人	61人	40人
	中学生	40人	48人	39人	▲9人
	高校生	78人	196人	99人	▲97人
	一般	154人	266人	547人	281人
	合計	307人	531人	746人	215人
	団体数	190団体	412団体	496団体	84団体
宮崎	小学生	18人	56人	57人	1人
	中学生	43人	41人	11人	▲30人
	高校生	46人	42人	69人	27人
	一般	894人	1049人	1,022人	▲27人
	合計	1,001人	1,188人	1,159人	▲29人
	団体数	977団体	1,130団体	1,011団体	▲119団体
白山	小学生	12人	47人	36人	▲11人
	中学生	8人	28人	15人	▲13人
	高校生	287人	65人	307人	242人
	一般	335人	1,005人	1,311人	306人
	合計	642人	1,145人	1,669人	524人
	団体数	520団体	1044団体	1,316団体	272団体

施設名	利用者	2020年度	2021年度	2022年度	前年度比較 (増減)
計	小学生	66人	143人	177人	34人
	中学生	117人	218人	355人	137人
	高校生	562人	560人	537人	▲23人
	一般	1,474人	2,688人	3,245人	557人
	合計	2,219人	3,609人	4,314人	705人
	団体数	1,949団体	3,265団体	3,427団体	162団体

【別表4】合同事業一覧

実施単位	開催日	内 容	参加数		開催場所(当日)
			事前	当日	
川崎区 第1・2・3G	11月12日	マンカラ大会 2022	904人		ふれあいプラザかわさき 2階ホール
				27人	
			合計	931人	
川崎区 第1G	7月28日	水辺の楽校・大師干潟で自然観察会		29人	大師河原水防センター (大師河原干潟館)
川崎区 第2G	12月4日	DAISHI☆にっこり☆とんとかタウン		311人	大師公園、 大師ONEPARK、 大師老人いこいの家、 大師こども文化センター
川崎区 第2G	2月25日	大師地区の今・昔 ～東海道かわさき宿400年に向けて～		70人	大師こども 文化センター
川崎区 第3G	12月4日	田島地区こども文化センター ポッチャ大会		27人	渡田小学校体育館
幸区 第1G	9月17日	ポッチャ大会	226人		幸こども文化センター
				33人	
			合計	259人	
幸区 第2G	12月3日	e-スポーツでつながろう ～大交流コブスタブラザーズ～		41人	南加瀬こども 文化センター
中原区 第1・2・3・4G	11月15日	秋のヴァイオリンコンサート ～子どもたちに音楽の贈り物を～		76人	総合自治会館
中原区 第1G	9月23日	KOSUMARU デイキャンプ ～森のクイズにチャレンジ!～		27人	林試の森公園
中原区 第2G	2月25日	ザ・チャレンジ ～リモートフェスティバル～2		31人	住吉こども文化センター 井田こども文化センター
中原区 第1G	1月14日	KOSUMARU CUP ～あつまれ!ポッチャ大会～	260人		小杉小学校 アリーナ
				32人	
			合計	292人	
中原区 第3G	8月23日 12月26日	なかよしカップ	506人		グループ内9施設 ※当日リモート開催
				45人	
			合計	551人	
中原区 第4G	10月28日	乳幼児と高校生のふれあい交流会		32人	新城こども 文化センター
中原区 第4G	12月17日	Mr.Xからの挑戦状	事前	440人	新城こども 文化センター
高津区 第1G	12月17日	みんなであそぼう♪		17人	高津こども 文化センター
高津区 第2G	7月1日	ポッチャ大会		64人	二子こども 文化センター

実施単位	開催日	内 容	参加数		開催場所（当日）
高津区 第3G	10月15日 ～16日	どっきどき☆ トリプルハッピーキャンプ	当日	30人	青少年の家
高津区 第3G	1月21日	冬のお楽しみウオークラリー inたちばな	当日	57人	橋地区周辺
高津区 第4区 館	7月30日	川崎港を見てみよう！ ～外国船見学会～ （上作延・二子・子母口・梶ヶ谷）	当日	19人	川崎港東扇島外貿埠頭 川崎マリエン
高津区 第1・2・3G	9月17日	帰って来た高津王 ～知力の壁を越えろ！ （館別対抗小学生クイズ大会）	当日	107人	各こども文化センター リモート開催
宮前区 第1G	9月3日	防犯スポーツプロジェクト	当日	46人	野川こども 文化センター
宮前区 第1G	9月17日	みつけよう！感じよう！！ ネイチャーゲーム～森と遊ぼう～	当日	28人	東高根森林公園
宮前区 第2G	9月18日 ～19日	ら・ら・ら合宿	当日	30人	青少年の家
宮前区 第2G	1月28日	ら・ら・らゲームパーク	当日	41人	平小学校体育館
多摩区 第1G	1月6日	スポーツスタッキング☆ チャンピオンシップ	事前 当日 合計	37人 28人 65人	長尾こども 文化センター
多摩区 第1G	10月10日	トレ・トレ・カレー	当日	19人	黒川青少年野外活動センター
多摩区 第2G	11月26日	ユニバーサルスポーツ大会	事前 当日 合計	28人 19人 47人	三田こども 文化センター
多摩区 第2G	1月6日	おたのしみ交流会	当日	48人	錦ヶ丘こども 文化センター
多摩区 第3G	10月29日	野外活動をやってみよう	当日	29人	黒川青少年 野外活動センター
多摩区 第3G	12月10日	地域ふれあいステージ	当日	90人	中野島小学校
多摩区 第1・2・3G	1月14日	ゴーゴーたまリンカップ！クイズ王決 定戦2022	事前 当日 合計	306人 68人 374人	各こども文化センター 各わくわくプラザ リモート開催
麻生区 第1G	1月21日	あっそぼうさい！ デイキャンプ2022		30人	黒川青少年野外活動センター
麻生区 第2G	10月23日	おかにーのネイチャーチャレンジ！		32人	王禅寺四ツ田緑地
麻生区 第3G	6月18日	モルック大会	事前 当日 合計	67人 21人 88人	山口台公園
麻生区 第3G	9月17日	サバイバル体験！ 防災×デイキャンプ		18人	黒川青少年 野外活動センター
麻生区 第3G	11月19日	フレンズカップ2022	事前 当日 合計	92人 16人 108人	白山こども 文化センター
麻生区 第1・2・3G	12月10日	オンラインクイズバトル	事前 当日 合計	296人 90人 386人	各こども文化センター 各わくわくプラザ リモート開催

【別表5】研修実施状況

①財団主催研修（全市合同）

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
新任主査研修	青少年事業課 課長、主幹、職員係長、 エリアマネージャー 社会保険労務士	主 査	4人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （事務研修Ⅰ）	青少年事業課 職員係、事業係、予算係、施 設係、人材育成係（係長、主 任、職員）	職 員	30人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （事務研修Ⅱ）	青少年事業課 職員係、事業係、予算係、施 設係、人材育成係（係長、主 任、職員）	職 員	28人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （普通救命講習Ⅲ）	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	エ リ ア 主 査 主 任 職 員	42人	中 原 消 防 署
新任館長・新任職員研修 （フコ-アップⅣ研修）	青少年事業課 主幹、エリアマネージャー エリア事務担当（主任、職 員）、人材育成係（係長、職 員）	館 長 職 員	35人	総 合 自 治 会 館 財 団 本 部
主任本部体験研修	青少年事業課 職員係、事業係、エリアマネ ージャー（係長、主任、職員）、人 材育成係	主 任	16人	財 団 本 部
主任研修 （本部体験研修【全体説明】）	青少年事業課 職員係、事業係、予算係、施 設係、人材育成係（係長、主 任、職員）	主 任	17人	財 団 本 部
主任研修 （新任研修体験談発表）	青少年事業課 エリアマネージャー	主 任	4人	財 団 本 部
主任研修 （館長会議参加）	青少年事業課 課長、主幹、係長、エリアマネ ージャー	主 任	15人	生涯学習プラザ総合 自 治 会 館
こども文化センター担当者研修 （レクリエーション研修）	レクリエーションインストラク ター取得経験者	主 査 主 任 職 員	52人	生涯学習プラザ
わくわくプラザ担当者研修 （事故対応研修（事例検 討））	青少年事業課 主幹、エリアマネージャー、 エリア事務担当（主任、職員） 人材育成係（係長、職員）	主 査 主 任 職 員	53人	総 合 自 治 会 館
館長・主査研修 （人材育成について）	課長補佐・人材育成係長 中村 正信	館 長 主 査 主 任 職 員	70人	生涯学習プラザ
館長・主査研修 （青少年事業課職員構成と今後の課 題）	課長補佐・職員係長 伊藤 知代	館 長 主 査 主 任 職 員	70人	生涯学習プラザ
館長・主査研修 （児童対応について（事例検 討））	課長補佐・人材育成係長 中村 正信	館 長	51人	総 合 自 治 会 館

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
こども文化センター担当者研修 (ボードゲーム研修)	課長補佐・事業係長 岩堀 誠 カワサキケイカンボード ゲームを普及する会	主 査 主 任 職 員	53人	中 原 市 民 館 総 合 自 治 会 館
協働・連携研修 「ハコモノを用意すればいい の?」	芝の家・ご近所ラボ新橋 事務局長 加藤 亮子氏	館 長	7人	川 崎 市 役 所 第 4 庁 舎 2 階 第 1・第 2 研修室

②財団主催研修 (グループ単位)

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
川 崎 区 第 1 G ～ 3 G	川崎区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨 時 職 員	27人	旭 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
川 崎 区 第 1 G ～ 3 G	川崎区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨 時 職 員	30人	日 進 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
川 崎 区 第 1 G・ 第 3 G	地域包括ケアシステム に資する取り組みに関 する研修	川崎区役所地域みまもり支 援センター 地域ケア推進課 企画調整係 係長 高橋 栄司氏 主任 森田 喜巳子氏	館 主 主 査 主 任 職 員	15人	日 進 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
川 崎 区 第 2 G	地域包括ケアシステム に資する取り組みに関 する研修	川崎区役所地域みまもり支 援センター 地域ケア推進課 企画調整係 係長 高橋 栄司氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	24人	大 師 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
川 崎 区 第 2 G	東海道川崎宿 起立400年にむけて	東海道かわさき宿交流館 ボランティアガイド	館 長 職 員	8人	東海道かわさき宿交流館
川 崎 区 第 3 G	子ども文化センターの 中学生・高校生の居場 所づくりと中学生高校 生の生徒指導の現状と 対応に関する研修	地域みまもり支援センター 指導主事 大井 正人氏	館 主 主 査 主 任 職 員 臨 時 職 員	21人	小 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
幸 区 第 1 G・ 第 2 G	幸区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨 時 職 員	29人	下 平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
幸 区 第 1 G・ 第 2 G	地域包括ケアシステム	川崎市健康福祉局 地域包括ケア推進室 田 師利氏 青木 優樹氏	館 主 任 員 職 員	19人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
幸 区 第 1 G	ポッチャ審判研修	川崎市幸スポーツセンター 館長 高橋 創一氏	館 主 任 員 職 員 臨 時 職 員	13人	南 河 原 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
幸 区 第 1 G	防災研修	幸区役所危機管理室 職員 宮崎 拓氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	24人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
中原区 第1G ～4G	中原区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長 主任 職員 臨時職員	30人	平間こども 文化センター
中原区 第1G ～4G	中原区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長 主任 職員 臨時職員	30人	大戸こども 文化センター
中原区 第1G	地域包括ケアシステム 構築のための運営について	中原区地域みまもり支援 センター 地域ケア推進課 企画調整係長 藤原 和也氏	館長 主任 職員	8人	新丸子こども 文化センター
中原区 第1G	野外活動研修	小杉こども文化センター 館長 塚本 千春 新丸子こども文化センター 館長 石井 いずみ	館長 主任 職員	8人	林試の森公園
中原区 第1G	合同事業運営研修 (ポッチャ研修)	新丸子こども文化センター 職員 平岩 卓三 職員 石川 景子	館長 職員	7人	新丸子こども 文化センター
中原区 第1G	SDGs 研修	特定非営利活動法人 かわさきスポーツドリーマーズ 小泉 英夫氏	館長 主任 職員 臨時職員	23人	新丸子こども 文化センター
中原区 第2G・ 第4G	地域包括ケア システム研修	中原区地域みまもり支援セ ンター 地域ケア推進課 企画調整係長 藤原 和也氏	館長 主任 職員	23人	大戸こども 文化センター
中原区 第2G	中学生・高校生の 居場所づくり	川崎市教育委員会 中原区教育担当 指導主事 寺田 一成氏	館長 職員 臨時職員	16人	井田こども 文化センター
中原区 第3G	地域包括ケアシステム に関する研修	川崎市特別養護老人ホーム ひらまの里 ホーム長 荒川 雄一氏	館長 職員 臨時職員	19人	平間こども文 化センター
高津区 第1G ～3G	高津区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長 主任 職員 臨時職員	33人	二子こども 文化センター
高津区 第1G	高津区地域包括ケアシ ステムを学ぶ研修	高津区役所 みまもり支援 センター（地域ケア推進 課） 課長補佐 岡部 慶子氏 担当 大矢氏 （地域支援課） 係長 藤崎氏 保健士 中山氏 担当 坂口氏	館長 職員 臨時職員	15人	高津こども文 化センター
高津区 第2G	SDGs 研修	川崎市役所 総務企画局 中山氏 都市政策部企画調整課 担当係長 武田 俊玄氏	館長 主任 職員 臨時職員	25人	東高津こども 文化センター

実施単位	研修名	講師	対象	参加数	開催場所
高津区 第3G	いきいき元気！出前講座（地域包括ケアシステム入門）	高津区役所地域みまもり支援センター 地域支援課 藤原 瞳氏	館長 主任職員 臨時職員	22人	梶ヶ谷こども文化センター
高津区 第3G	他施設体験研修	高津区第3グループ わくわくプラザ担当職員	臨時職員	12人	高津区第3グループ わくわくプラザ
高津区 第3G	野外活動研修	末長こども文化センター 館長 高橋 慶次	館長 職員 臨時職員	10人	川崎市青少年の家
宮前区 第1G・ 第2G	防災研修	宮前区役所危機管理室 本間 幹夫氏	館長 主任職員	21人	宮前平こども文化センター
宮前区 第1G・ 第2G	宮前区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長 職員 臨時職員	30人	宮崎こども文化センター
宮前区 第1G	宮前区地域見守り支援センター（福祉事務所・保健所）とこども文化センター・わくわくプラザ事業との輪を広げるために	宮前区役所地域みまもり支援センター地域ケア推進課 大木 かほ里氏	館長 主任職員 臨時職員	30人	宮崎こども文化センター
宮前区 第2G	野外活動研修	宮前平こども文化センター 館長 黒澤きよみ	館長 主任職員	6人	宮前平こども文化センター
宮前区 第2G	宮前区地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所）とこども文化センター・わくわくプラザ事業との輪を広げるために	宮前区役所地域みまもり支援センター地域ケア推進課 大木 かほ里氏	館長 主任職員 臨時職員	33人	白幡台こども文化センター
多摩区 第1G ～3G	多摩区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長 主任職員 臨時職員	30人	長尾こども文化センター
多摩区 第1G ～3G	多摩区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長 職員 臨時職員	25人	中野島こども文化センター
多摩区 第1G・ 第2G	地域包括ケアシステム研修	多摩区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）地域ケア推進課 企画調整係 課長補佐 林 史大氏 主任 石曽根 敦子氏 地区支援第1係 保健師 石垣 亜祐美氏	館長 職員	15人	三田こども文化センター
多摩区 第1G	ポッチャ研修	長尾こども文化センター 職員 石橋 淳	館長 職員	7人	枅形こども文化センター

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
多摩区 第2G	ユニバーサルスポーツ研修	錦ヶ丘子ども文化センター 主任 太田 明美 三田子ども文化センター 主査 久好 美佳	館 長 員 職 員	6人	三 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
多摩区 第3G	中学生・高校生の居場所づくり	菅子ども文化センター 館長 和田 淳二	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	18人	菅 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
多摩区 第3G	地域包括ケアシステムに関する研修	多摩区役所地域みまもり支援センター地域支援課 谷 草太氏 林 史大氏 地域ケア推進課 林 美沙氏	館 長 員 職 員	12人	中 野 島 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
多摩区 第3G	工作研修	菅子ども文化センター 臨時職員 田代 誉子 中野島子ども文化センター 職員 西岡 奈々子 南菅子ども文化センター 館長 川上 成子	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	25人	南 菅 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
麻生区 第1G ～3G	麻生区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	29人	麻 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
麻生区 第1G ～3G	地域包括ケアシステム研修	麻生区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課 船山 智志氏 上原 慎也氏	館 長 員 主 職 員	22人	麻 生 区 役 所
麻生区 第1G	野外活動研修	百合丘子ども文化センター 館長 鈴木 武	館 長 員 職 員	8人	黒 川 青 少 年 野 外 活 動 セ ン タ ー
麻生区 第1G	他施設見学研修	麻生区第1グループ わくわくプラザ担当職員	臨 時 職 員	29人	麻 生 区 第 1 グ ル ー プ わ く わ く プ ラ ザ
麻生区 第1G	衛生管理研修	神奈川県衛生研究所 鈴木 理恵子氏	館 長 員 主 職 員 臨 時 職 員	26人	百 合 丘 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
麻生区 第1G	レクリエーション・ボードゲーム研修	公益財団法人 かわさき市民活動センター 主査 木村 友也	館 長 員 主 職 員 臨 時 職 員	21人	千 代 ヶ 丘 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
麻生区 第2G	他施設体験研修	麻生区第2グループ わくわくプラザ担当職員	職 員 臨 時 職 員	18人	麻 生 区 第 2 グ ル ー プ わ く わ く プ ラ ザ
麻生区 第2G	グループ行事事前研修 ・火起こし体験 ・ネイチャーゲーム ・校外活動の取り組み方	王禅寺子ども文化センター 館長 掛田 隆 虹ヶ丘子ども文化センター 館長 小牧 輝代子	主 任 員 職 員	8人	王 禅 寺 こ ど も 文 化 セ ン タ ー

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
麻生区 第3G	モルック研修	白山こども文化センター 館長 中川路 ふみ子	館 長 主 任 職 員 臨 時 職 員	7人	麻生こども文化センター 及び山口台公園
麻生区 第3G	防災研修	麻生区危機管理担当 職員 斉藤 幸雄氏	館 長 主 任 職 員 臨 時 職 員	35人	麻 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
麻生区 第3G	野外活動事前研修	麻生こども文化センター 館長 野々村 直登	館 長 職 員 臨 時 職 員	8人	麻 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
麻生区 第3G	マンカラ審判研修	白山こども文化センター 館長 中川路 ふみ子	職 員 臨 時 職 員	12人	白 山 こ ど も 文 化 セ ン タ ー

③川崎市主催研修

研 修 名	講 師	対 象	参加数 (内ワイク)	開 催 場 所 (オンライン会場)
第1回 児童健全育成論	特定非営利活動法人 子どもと生活文化協会(CLCA) 和田 重宏 氏	館 長 主 任 職 員 臨 時 職 員	63人	生 涯 学 習 プ ラ ザ (本 部)
第2回 接遇・応対	合同会社 MAKANA LEA プランニング 代表 高木 ナオミ氏	館 長 主 任 職 員 臨 時 職 員	108人 (2人)	生 涯 学 習 プ ラ ザ (本 部)
第3回 職員への助言・指導	株式会社メンタルシンクタンク 副社長 舟木 彩乃氏	館 長 主 任 職 員 臨 時 職 員	105人 (2人)	生 涯 学 習 プ ラ ザ (本 部)
第4回 いじめの理解と対応	認定 NPO 法人 エンパワメントかながわ 理事長 阿部 真紀氏	館 長 主 任 職 員 臨 時 職 員	105人 (2人)	生 涯 学 習 プ ラ ザ (本 部)
第5回 子どもの権利	川崎市市役所 青少年支援室 専門調査員 圓谷 雪絵氏 北所 邦美氏	館 長 主 任 職 員 臨 時 職 員	106人 (2人)	生 涯 学 習 プ ラ ザ (本 部)
第6回 遊びや体験の支援	NPO 法人 国際自然大学校 営業マネージャー 村中 達哉氏	館 長 主 任 職 員 臨 時 職 員	118人	黒 川 青 少 年 野 外 活 動 セ ン タ ー

研 修 名	講 師	対 象	参加数 (内わい)	開 催 場 所 (オンライン会場)
第7回 アレルギー対応 (エビペン実習含む)	川崎市教育委員会 健康教育課 築部 めぐみ氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	107人 (2人)	生涯学習プラザ (本部)
第8回 特別な配慮が必要な児童への 関わり方 (LGBTQ)	特定非営利活動法人 SHIP 理事長 星野 慎二氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	107人 (2人)	生涯学習プラザ (本部)
第9回 野外活動 (野外での火気取り扱い)	国際自然大学校 職員 野口 透氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	97人	黒川青少年 野外活動センター
第10回 特別な配慮が必要な児童への 関わり方 (初級)	公益財団法人 東京都福祉保健財団東京都 子育て支援員育成研修の講師 ダイヤル・サービス株式会社 カウンセラー 野智 佳子氏	主 任 職 員 臨時職員	105人 (1人)	生涯学習プラザ (本部)
第11回 特別な配慮が必要な児童への 関わり方 (初級) 外国につながる子どもの支 援	認定 NPO 法人 多文化共生教育ネットワークかながわ 事務局長 高橋 清樹氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	122人 (63人)	カルッツかわさき (各こども文化センター)
第12回 特別な配慮が必要な児童への 関わり方 (中級)	公益財団法人 東京都福祉保健財団東京都 子育て支援員育成研修の講師 ダイヤル・サービス株式会社 カウンセラー 野智 佳子氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	137人 (76人)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第13回 児童虐待	近未来教育変革研究所 所長 藤井 秀一氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	143人 (81人)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第14回 中高生への関わり方	特定非営利活動法人 パノラマ認定 NPO 法人 フリースペースたまりば 事務局次長・理事 一般社団法人 生活困窮者自立支援 全国ネットワーク研修委員 鈴木 晶子氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	98人 (44人)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第15回 安全管理・事故防止	元横浜市立中学校校長 児玉 政徳氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	101人 (74人)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)

研 修 名	講 師	対 象	参加数 (内ワイク)	開 催 場 所 (オンライン会場)
第16回 保護者・家庭との連携	元横浜市立中学校長 児玉 政徳氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	72人 (36人)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第17回 通信、便りの工夫	デザイナー（フリーランス） 服部 ゆう子氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	73人 (50人)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第18回 学校の地域との連携	株式会社ネットマン 代表取締役社長 永谷 研一 氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	38人 (16人)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第19回 要望及び苦情への対応マニュアルの作成、体制の整備	近未来教育変革研究所 所長 藤井 秀一氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	38人 (29人)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第20回 主任児童員との 連携の工夫	川崎市民生委員児童委員協議会 吉垣 君子氏	館 長 主 任 職 員 臨時職員	24人 (7人)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)

④資格取得研修

研 修 名	講 師	対 象	取 得 数	開 催 場 所
児童厚生員等基礎研修会 (児童厚生2級)	一般財団法人 児童健全育成推進財団	職 員	17人	LINK FOREST
神奈川県放課後児童支援員 認定資格 (6・9・11・2月開催)	株式会社 東京リーガルマインド	職 員 臨時職員	53人	横浜技能文化会館 ユニコムプラザさがみはら
衛生推進者養成講習	一般社団法人 安全衛生マネジメント協会	館 長 主 査	2人	産業貿易センタービル
甲種防火管理者講習会	川崎市消防防災指導公社	主 査 主 任	3人	かわさき保育会館

【別表6】教育実習等の受入状況

①児童館教育実習生の受入状況

依 頼 学 校 名	人 数	実 習 場 所	実習期間
有明教育芸術短期大学	2人	平こども文化センター	12日
		小杉こども文化センター	
昭和女子大学	2人	枳形こども文化センター	12日
		麻生こども文化センター	
草苑保育専門学校	1人	二子こども文化センター	11日

②社会体験研修（教諭）の受け入れ状況

依頼学校名	人数	受入場所	受入期間
稲城市立南山小学校	1人	菅こども文化センター	3日

③小学校・中学校生のまち探検（社会科見学）の受入状況

学区	学校名	人数	受入場所	実施日数
川崎区	旭町小学校	134人	旭町こども文化センター	2日
	川崎小学校	8人	日進町こども文化センター	1日
	大師小学校	12人	大師こども文化センター	1日
	殿町小学校	5人	殿町こども文化センター	1日
	渡田小学校	186人	田島こども文化センター	4日
	浅田小学校	40人	浅田こども文化センター	1日
	藤崎小学校	105人	藤崎こども文化センター	1日
幸区	南河原小学校	61人	南河原こども文化センター	1日
	幸町小学校	126人	南河原こども文化センター	1日
	戸手小学校	20人	幸こども文化センター	1日
	下平間小学校	53人	下平間こども文化センター	2日
	夢見ヶ崎小学校	13人	南加瀬こども文化センター	1日
	小倉小学校	68人	小倉こども文化センター	5日
	日吉小学校	7人	北加瀬こども文化センター	2日
中原区	東住吉小学校	7人	小杉こども文化センター	1日
	上丸子小学校	9人	新丸子こども文化センター	1日
	西丸子小学校	12人	新丸子こども文化センター	1日
	住吉小学校	63人	住吉こども文化センター	2日
	下小田中小学校	31人	井田こども文化センター	1日
	井田小学校	164人	井田こども文化センター	2日
	平間小学校	3人	平間こども文化センター	1日
	荻宿小学校	60人	西加瀬こども文化センター	1日
	新城小学校	15人	新城こども文化センター	1日
	宮内小学校	12人	宮内こども文化センター	1日
大谷戸小学校	155人	大戸こども文化センター	2日	
高津区	上作延小学校	9人	上作延こども文化センター	1日
	末長小学校	14人	末長こども文化センター	2日
	子母口小学校	12人	子母口こども文化センター	1日
宮前区	宮前平小学校	18人	宮崎こども文化センター	1日
	宮崎台小学校	120人	宮崎こども文化センター	2日
	宮崎小学校	18人	有馬こども文化センター	1日
	南野川小学校	6人	野川こども文化センター	1日
	白幡台小学校	35人	白幡台こども文化センター	1日
	宮前平小学校	27人	宮前平こども文化センター	1日
	富士見台小学校	32人	宮前平こども文化センター	1日
向丘小学校	9人	平こども文化センター	1日	

学 校 名	人 数	受 入 場 所	実 施 日 数	
多摩区	東生田小学校	60人	柘形こども文化センター	2日
	宿河原小学校	23人	長尾こども文化センター	1日
	稲田小学校	29人	長尾こども文化センター	1日
	生田小学校	80人	錦ヶ丘こども文化センター	1日
	三田小学校	4人	三田こども文化センター	1日
	中野島小学校	143人	中野島こども文化センター	3日
麻生区	千代ヶ丘小学校	31人	千代ヶ丘こども文化センター	1日
	東柿生小学校	12人	王禅寺こども文化センター	1日
	東柿生小学校	18人	柿生こども文化センター	1日
	王禅寺中央小学校	25人	王禅寺こども文化センター	1日
	王禅寺中央小学校	9人	白山こども文化センター	1日
	真福寺小学校	42人	白山こども文化センター	1日
	麻生小学校	132人	麻生こども文化センター	2日
宮前区	有馬中学校	12人	有馬こども文化センター	1日

④中学生の職業体験の受入状況

学 校 名	人 数	受 入 場 所	実 施 日 数	
幸区	日吉中学校	3人	北加瀬こども文化センター	1日
中原区	今井中学校	5人	住吉こども文化センター	1日
	西中原中学校	8人	住吉こども文化センター	2日
	西中原中学校	5人	井田こども文化センター	2日
	西中原中学校	8人	平間こども文化センター	2日
	平間中学校	6人	平間こども文化センター	2日
	西中原中学校	9人	玉川こども文化センター	2日
	平間中学校	9人	玉川こども文化センター	2日
	日吉中学校	2人	西加瀬こども文化センター	1日
	西中原中学校	10人	新城こども文化センター	2日
	西中原中学校	7人	大戸こども文化センター	2日
高津区	東高津中学校	4人	宮内こども文化センター	2日
	東高津中学校	4人	二子こども文化センター	1日
多摩区	生田中学校	4人	末長こども文化センター	1日
多摩区	生田中学校	1人	三田こども文化センター	1日
麻生区	柿生中学校	8人	柿生こども文化センター	2日

【別表7】地域子育て支援センター（連携型）事業 利用状況

区	施設名	種別	2020年度 (6施設)	2021年度 (5施設)	2022年度 (2施設)	前年度比較 (増減)
川崎区	ふあみいゆ殿	児童	919人	1,335人	1,243人	▲92人
		成人	796人	1,094人	1,093人	▲1人
		合計人数	1,715人	2,429人	2,336人	▲93人
	ふあみいゆ島	児童	664人	1,358人		
		成人	650人	1,280人		
		合計人数	1,314人	2,638人		
	ふあみいゆ浅	児童	862人	1,377人	1,417人	40人
		成人	758人	1,098人	1,198人	100人
		合計人数	1,620人	2,475人	2,615人	140人
幸区	ふあみいゆ南河原	児童	1,180人	1,422人		
		成人	1,141人	1,354人		
		合計人数	2,321人	2,776人		
中原区	ふあみいゆ平	児童	1,230人	1,864人		
		成人	1,063人	1,808人		
		合計人数	2,293人	3,672人		
	ふあみいゆ柿	児童	1,072人			
		成人	1,069人			
		合計人数	2,141人			
合 計	児童	5,927人	7,356人	2,660人	▲4,696人	
	成人	5,477人	6,634人	2,291人	▲4,343人	
	合計人数	11,404人	13,990人	4,951人	▲9,039人	

- ※2022年度より「ふあみいゆ島・南河原・平間」が他団体の運営となり、2館受託になりました。
 ※2021年度の利用状況から「ふあみいゆ島・南河原・平間」分を差し引いて今年度と比較した場合、合計人数は47人増となります。
 ※2019年度3月～2021年度9月は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、臨時休所、運営内容の制限などを設けて運営しました。

3 法人の運営

2010年に公益財団法人としての認定を受け、その後、効果的な公益目的事業の実施と法人としての役割・機能が発揮できる組織づくりを本部と現場が一体となって取り組みを進めてきました。また、当財団が実施している事業や財務に関して広く市民へ説明する責務を自覚して法人の運営を行いました。

2021年4月に同一労働同一賃金が法制化され、本法人においても、これを遵守し、実現するため、固定報酬の廃止並びに昇給を含めた給料表の作成、期末勤勉手当等の支給などによる嘱託職員の処遇改善を2022年度から本格実施しました。

また、2022年度の育児・介護休業法の改正に伴い、本法人の職員育児休業規程等の関係規定を改正し、男性が育児休業を取得しやすいなどの雇用環境を整備したほか、同年10月から「年金制度の機能強化のための国民年金法の一部を改正する法律」（年金制度改正法）の適用が従業員数100人を超える事業所となったことに伴い、1週の所定労働時間が20時間以上の短時間労働者も健康保険・厚生年金保険（社会保険）の適用となり、本法人においても、当該労働者を社会保険に加入することにより、年金等の補償の充実を図りました。

2020年度に産業医を選任し、3年が経過しましたが、産業医によるコロナ禍における職員に必要な安全・衛生知識の啓発及び指導並びに職員の健康相談など、施設利用者の安全安心及び職員の健康管理等の労働安全衛生を推進してまいりました。

ア 業務・組織改善の取組

法人全体の業務改善に取り組むとともに、事業計画の進捗管理を着実にを行い、適切な入札制度等により、コスト削減や効果的な事業の実施等を通じて、経営基盤の強化を図り、組織の総合力向上に努めました。

組織としての一体感の醸成や職員のスキルアップを図るため、各種研修等を実施するとともに、職員の意識改革の促進と人材育成にも取り組みました。

イ 財務業務の適正運営の取組

経理・会計処理では、公益法人会計基準に準拠した会計を的確に行うため、2013年9月1日からP C A公益法人会計ソフトを導入するなど、継続的に、事務を見直すことにより、経費削減に取り組むと共に、各課との連携を図り、円滑な事務処理を行いました。

また、適正な会計処理の継続的な実施に向け、各課に周知徹底を図りながら専門家等のアドバイスを受け、経理事務の改善を推進すると共に、安定した公益財団法人の経営を維持するために適切な財務管理を実施しています。

ウ その他

2021年度の事業報告書等の提出については、関係書類等を作成し監事監査を経て、理事会及び評議員会（定時評議員会）での承認を受け、6月24日に行政庁（神奈川県）へ報告しました。なお、関係書類等については本法人の事務所に備え置くとともに、貸借対照表を公衆の見やすい場所に掲示しました。

また、行政庁（神奈川県）の立入検査が2023年3月15日に実施され、事業執行・財団運営、財務・会計・事業について、書類審査及びヒアリング等が行われましたが、特段の指摘事項はなく、最終的な検査実施結果は、2023年度前半に通知される予定です。

2023年度の事業計画書及び収支予算等は、第3回理事会で承認を受け、2023年3月30日に行政庁に提出しました。